

1	<b>表象文化論</b> FGE-CCS-110	選択 2単位 1年後期	
	Culture and Representation		
全学科1年全組 講師 河内 聡子			
<b>授業の達成目標</b>		<b>授業形態</b>	
表象文化論についての基礎知識を習得するとともに、表象を多角的に捉える力を身につける。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)	
		オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>		<b>該当科目</b>	
本講義においては、諸メディア（芸術・映画・アニメ・マンガ等）で再現・表現された様々なイメージについて、その歴史的背景や文化的文脈とのかかわりも踏まえて分析、考察を行う。まず表象・文化とはどのようなものかについて確認した上で、設定した時代・テーマに関するイメージを解説し、同時に広く文化・時代状況について検討する。		教職科目（工業）	
		教職科目（情報）	
		地域志向科目	
<b>実務経験を活かした教育について</b>		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
<b>授業計画（各回の学習内容等）</b>			
	<b>学習内容（授業方法）</b>	<b>学習課題（予習・復習）</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	ガイダンス：表象文化におけるアニメーション	【予習】 シラバス通読の上、準備学習を行う。 【復習】 ガイダンス内容の確認とコメントの記述。	4
第2回	日本アニメの誕生	【予習】 日本の古いアニメについて調べる。 【復習】 講義内容（日本アニメの誕生）の確認とコメント記述。	4
第3回	アニメの技術革新—セル画とトーキー—	【予習】 アニメの作り方について調べる。 【復習】 講義内容（アニメの技術革新）の確認とコメント記述。	4
第4回	アニメの大衆化—メディアとしての普及と受容—	【予習】 メディアとは何かについて調べる。 【復習】 講義内容（アニメの大衆化）の確認とコメント記述。	4
第5回	アニメの技術と表現—日本と海外との比較に見る—	【予習】 海外のアニメにどのようなものがあるかを調べる。 【復習】 講義内容（日本と海外の比較）の確認とコメント記述。	4
第6回	アニメと社会—文化装置としてのアニメ—	【予習】 アニメの社会的影響について調べる。 【復習】 講義内容（文化装置のアニメ）の確認とコメント記述。	4
第7回	アニメと社会—産業化・商業化するアニメ—	【予習】 アニメの興行収入について調べる。 【復習】 内容（アニメの産業・商業化）確認とコメント記述。	4
第8回	作品の鑑賞と解説「桃太郎 海の神兵」—国策メディアとしてのアニメ—	【予習】 「国策メディア」にどのようなものがあるか調べる。 【復習】 講義内容（「国策メディア」）の確認とコメント記述。	4
第9回	作品の鑑賞と解説「桃太郎 海の神兵」—アニメにおける戦争表象—	【予習】 戦争を扱ったアニメにどのような作品があるか調べる。 【復習】 講義内容（アニメの戦争表象）の確認とコメント記述。	4
第10回	テレビアニメの登場と展開—劇場アニメとの比較による検討—	【予習】 テレビおよびアニメ放送の歴史について調べる。 【復習】 講義内容（テレビアニメの歴史）確認とコメント記述。	4
第11回	手塚治虫と虫プロダクション—その挑戦と革新—	【予習】 手塚治虫がどのような人物か調べる。 【復習】 講義内容（手塚アニメ）の確認とコメント記述。	4
第12回	宮崎駿・高畑勲とスタジオジブリ—「アニメ監督」の登場—	【予習】 宮崎駿・高畑勲がどのような人物か調べる。 【復習】 講義内容（スタジオジブリ）の確認とコメント記述。	4
第13回	作品の鑑賞と解説「AKIRA」—物語内容の分析と検討—	【予習】 「AKIRA」の作品内容について調べる。 【復習】 講義内容（「AKIRA」）の確認とコメント記述。	4
第14回	まとめと試験	【予習】 配付プリント全てについて復習とコメントの総まとめ。 【復習】 試験内容の復習。	4
<b>教科書・参考書等</b>			
毎回プリントを配付し、それによって講義を進める。参考の書籍やURL 等がある場合は講義中に紹介する。			
<b>成績評価方法・基準</b>			
最終テスト（60%）とレポート課題（2回）（40%）により評価する。課題については、授業時に全体に対しフィードバックを行う。			

2	<b>現代社会論</b> FGE-CCS-111	選択 2単位 1年後期	
	Modern Sociology		
全学科1年全組 非常勤講師 牛渡 亮			
<b>授業の達成目標</b>		<b>授業形態</b>	
日本社会が高度経済成長のなかでいかに変容してきたのかについて理解し、現代日本社会の特徴を理解するための視点を養う。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)	
		オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>		<b>該当科目</b>	
日本社会は戦後の高度経済成長を通して大きく変貌を遂げてきた。本講義では、私たちが生きている現代日本社会の成り立ちや特徴を理解することを目的に、高度経済成長が私たちの生活にもたらした変化、その意味について解説する。		教職科目 (工業)	
		教職科目 (情報)	
		地域志向科目	
<b>実務経験を活かした教育について</b>		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>			
	<b>学習内容 (授業方法)</b>	<b>学習課題 (予習・復習)</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	ガイダンス	(予習) シラバスを通読した上で、不明な語句等を調べておく。 (復習) 社会学の基本的な立場やその視点を復習する。	4
第2回	高度経済成長がもたらしたもの	(予習) 高度経済成長とは何かを調べておく。 (復習) 高度経済成長期の日本に起きた変化を復習する。	4
第3回	産業化と家族の変化	(予習) 近代家族とは何かを調べておく。 (復習) 高度経済成長期の家族の特徴を復習する。	4
第4回	性別とジェンダー	(予習) ジェンダーとは何かを調べておく。(復習) 性別とジェンダーとの違いや、ジェンダーに関する社会問題を復習する。	4
第5回	現代日本における非婚化・晩婚化	(予習) 結婚の意義とは何かを調べておく。(復習) 日本における非婚化・晩婚化の現状やその要因を復習する。	4
第6回	現代日本における少子化	(予習) 少子化の要因が何かを調べておく。(復習) 日本における少子化の現状やその要因を復習する。	4
第7回	ここまでのまとめとレポートの書き方指導	(予習) これまでの配布資料を読み返し、論点をまとめておく。 (復習) レポートを書くための基本ルールを復習する。	4
第8回	レポート課題となる映像資料の視聴	(予習) 家族を形成する意義や子どもを持つ意義とは何かを考えておく。(復習) 映像資料をもとに課題レポートを作成する。	4
第9回	社会的自己の構造	(予習) 相互作用とは何かを調べておく。 (復習) 人間の自己と社会との関係を復習する。	4
第10回	逸脱とラベリング	(予習) ラベリングとは何かを調べておく。(復習) 逸脱の社会的意味や、ラベリングに関連する社会問題を復習する。	4
第11回	素質と環境	(予習) 差別が起こる要因を調べておく。(復習) 人間の成長に対する素質と環境の影響について復習する。	4
第12回	文化と再生産	(予習) 機会の平等と結果の平等の違いを調べる。(復習) 現代社会における階層の再生産と、そこで文化の果たす役割について復習	4
第13回	差別と平等	(予習) アファーマティブ・アクションとは何かを調べておく。 (復習) 教育における機会の平等に関連する社会問題を復習する。	4
第14回	現代日本における子どもの貧困／まとめと試験	(予習) 貧困とは何かを調べておく。(復習) 現代日本における子どもの貧困問題の現状やその要因を復習する。	4
<b>教科書・参考書等</b>			
授業ごとにプリントを配布し、それにしたがって授業を進めるため、教科書は使用しない。 参考図書については、授業内容に関連するものを適宜紹介する。社会学全体にかかわる参考図書としては、長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学』(有斐閣)や、アンソニー・ギデンズ『社会学 第五版』(而立書房)が有用である。			
<b>成績評価方法・基準</b>			
課題レポート (30%) と期末試験 (70%) によって総合的に評価する。課題については、授業時に全体に対しフィードバックを行う。			

3	<b>現代メディア論</b> FGE-CCS-310	選択 2単位 2年前期	
	Modern Media		
全学科2年全組 准教授 大木 葉子			
<b>授業の達成目標</b>		<b>授業形態</b>	
主に書籍・雑誌、絵本、映像メディアについての基礎知識を習得するとともに、各メディアの分析方法を身につける。現代の各メディアの歴史的な展開と、我々の社会意識・文化状況との関係について理解する。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)	
		オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>		<b>該当科目</b>	
我々が日々接しているメディアは、消費社会の高度化と科学技術の進展を背景に、世界中を覆い尽くし、生活になくてはならないものとなっている。本講義では、多様な意味を持つ「メディア」の20世紀以降の展開を概説し、さらにそれらが我々の社会・文化にどのような影響を与えてきたかについて考察を行う。		教職科目 (工業)	
		教職科目 (情報)	
		地域志向科目	
<b>実務経験を活かした教育について</b>		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>			
	<b>学習内容 (授業方法)</b>	<b>学習課題 (予習・復習)</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	ガイダンス：メディア論概説、メディアの多様性	(予習) シラバスを通読し、メディアとは何かを調べる。 (復習) 授業内資料の確認とワークシートの整理。	4
第2回	メディアをめぐる問題の諸相 日本におけるメディアの展開①—戦前のメディア状況—	(予習) 事前に配布されたテキストを読んでくること。 (復習) 講義内容の確認とワークシートの整理。	4
第3回	日本におけるメディアの展開②—戦後におけるメディアの展開—	(予習) 事前に配布されたテキストを読んでくること。 (復習) 講義内容の確認とワークシートの整理。	4
第4回	現代社会におけるマスメディアの様相①—映画に見るマスメディアと我々の生活—	(予習) マスメディアについて調べる。 (復習) 講義内容の確認とワークシートの整理。	4
第5回	現代社会におけるマスメディアの様相②—映画に見るマスメディアと我々の生活—	(予習) マスメディアの抱える問題について調べる。 (復習) 講義内容の確認とワークシートの整理。	4
第6回	映像メディアを読み解く①—子ども向け映像メディアのあり方—	(予習) メディアミックスについて調べる。 (復習) 講義内容の確認とワークシートの整理。	4
第7回	映像メディアを読み解く②—1960年～1970年代の子ども向け映像メディアが描くヒーロー像と社会—	(予習) 1960年代～1970年の社会状況について調べる。 (復習) 講義内容の確認とワークシート整理。	4
第8回	映像メディアを読み解く③—2000年以降の子ども向け映像メディアが描くヒーロー像と社会—	(予習) 2000年以降の社会状況について調べる。 (復習) 講義内容の確認とワークシート整理。	4
第9回	映像メディアを読み解く④—メディアが伝えるメッセージと現代社会—	(予習) 授業内容以外の映像メディアの特徴について調べる。 (復習) 講義内容の確認とワークシート整理。	4
第10回	視覚テキストと文字テキストの融合①—絵本というメディア—	(予習) 絵本の定義について調べる。 (復習) 講義内容の確認とワークシートの整理。	4
第11回	視覚テキストと文字テキストの融合②—絵本における映像メディアとしての可能性—	(予習) 絵本の可能性を広げる試みに付いて調べる。 (復習) 講義内容の確認とワークシート整理。	4
第12回	視覚テキストと文字テキストの融合③—絵本が描き出す現代社会—	(予習) 現代社会が抱える問題について調べる。 (復習) 講義内容の確認とワークシート整理。	4
第13回	各メディアの特性と差異 (それぞれの可能性と限界)	(予習) 文字テキスト、映像メディア、絵本の特性をまとめる。 (復習) 講義内容の確認とワークシート整理。	4
第14回	まとめと試験	(予習) 各回の講義内容及び資料を見直し、整理する。 (復習) 試験内容の確認。	4
<b>教科書・参考書等</b>			
教科書は特に指定しない。毎回資料を配付し、それに基づいて授業を行う。配布した資料以外の参考資料については適宜授業内で指示をする。			
<b>成績評価方法・基準</b>			
最終テスト (70%) と提出課題 (30%) により評価する。課題については、授業時に全体に対しフィードバックを行う。			

4	<b>環境問題とエコロジー</b> FGE-CCS-311	選択 2単位 2年前期	
	Environmental Issues and Ecology		
2年全組 教授 山田 一裕 准教授 佐野 哲也			
<b>授業の達成目標</b>		<b>授業形態</b>	
持続可能な開発目標 (SDGs:Sustainable development Goals) で取り上げられている環境分野に関連する諸問題 (安全な水の供給、クリーンなエネルギーの供給、持続可能な生産、気候変動への対策、海洋資源の持続的利用、森林資源の持続的利用) について理解する。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input checked="" type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>		<b>該当科目</b>	
産業革命以降の急速な人口増加と経済活動の拡大により、人類は大きな課題に直面している。環境問題を理解するために必要なエコロジーに関する知識を学び、環境問題について理解し、社会的な動きを見ていく。また、自然と共生する社会を築くための基盤となる考え方として、自然から与えられる恵と災害とを認識する。授業を通して、日常生活や地域社会などの身近な場面で、社会の一員として地球環境を維持していくために自らできることを考える。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (情報) <input type="checkbox"/> 地域志向科目	
<b>実務経験を活かした教育について</b>		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>			
	<b>学習内容 (授業方法)</b>	<b>学習課題 (予習・復習)</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	ガイダンス・生態学 (エコロジー) について	シラバスを読んで講義の概要を予習する。エコロジーという言葉の意味について復習をする。	4
第2回	持続可能な開発目標 (SDG s) について	SDG s が定められた背景について予習をする。SDG s の内容について復習する。	4
第3回	安全な水の供給	安全な水の供給に関わる問題について予習する。安全な水の供給に向けた取組みについて復習する。	4
第4回	水に関連する生態系の保護	水に関連する生態系の保護に関わる問題について予習する。水に関連する生態系の保護に向けた取組みについて復習する。	4
第5回	海洋の保全と持続的利用	海洋の保全と持続的利用に関わる問題について予習する。海洋の保全と持続的利用に向けた取組みについて復習する。	4
第6回	持続可能な消費と生産	持続可能な消費と生産に関わる問題について予習する。持続可能な消費と生産に向けた取組みについて復習する。	4
第7回	地球の気候とバイオーム	地球の気候とバイオームについて予習する。地球の気候とバイオームについて復習する。	4
第8回	熱帯雨林の保全	熱帯多雨林における環境問題について予習する。熱帯多雨林における環境問題について復習する。	4
第9回	生物多様性	生物多様性の意味について予習する。生物多様性の意味と具体例について復習する。	4
第10回	砂漠化・森林火災	砂漠化・森林火災の事例について予習する。砂漠化・森林火災について復習する。	4
第11回	気候変動と海洋	気候変動と海洋について予習する。気候変動と海洋について復習する。	4
第12回	地球温暖化問題	地球温暖化の事例について予習をする。地球温暖化対策について復習をする。	4
第13回	大気汚染の問題	大気汚染問題の事例について予習をする。大気汚染問題の解決策についてまとめる。	4
第14回	再生可能エネルギーについて	エネルギー問題について予習をする。各種再生可能エネルギーについてメリットとデメリットをまとめる。	4
<b>教科書・参考書等</b>			
参考書：ECO 検定公式テキスト 東京商工会議所			
<b>成績評価方法・基準</b>			
確認テストの結果とレポート課題の内容をふまえて成績を評価する。			

<b>5</b>	<b>市民と法</b> FGE-CCS-410	選択 2単位 2年後期	
Introduction to Law			
准教授 片山 文雄			
<b>授業の達成目標</b>		<b>授業形態</b>	
法・裁判の現状と考え方に触れ、基礎的な知識を修得すること。法から社会を知ること。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>		<b>該当科目</b>	
社会が複雑化するなか、トラブル解決の手段としての法・裁判はますます重要になっている。裁判員制度のように、市民が法・裁判にいつそう深くかかわる機会もふえてきた。本講義では、法・裁判のしくみと法的な考え方について、具体的に、根本から考える。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (情報) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
<b>実務経験を活かした教育について</b>			
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>			
	<b>学習内容 (授業方法)</b>	<b>学習課題 (予習・復習)</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	序	(予習) シラバスを読んでくる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第2回	法とは何か	(予習) 法とは何かについて調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第3回	法の種類	(予習) 法の種類について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第4回	裁判とは何か	(予習) 裁判とは何かについて調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第5回	裁判の種類：民事裁判と刑事裁判	(予習) 民事裁判と刑事裁判について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第6回	民事裁判 その実体 (1) 契約	(予習) 契約について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第7回	民事裁判 その実体 (2) 物権、不法行為	(予習) 物権、不法行為について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第8回	民事裁判 その手続	(予習) 民事裁判の手続について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第9回	刑事裁判 その実体 (1) 犯罪	(予習) 刑事裁判における犯罪について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第10回	刑事裁判 その実体 (2) 刑罰	(予習) 刑事裁判における刑罰について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第11回	刑事裁判 その手続 (1) 捜査	(予習) 刑事裁判における捜査について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第12回	刑事裁判 その手続 (2) 起訴から判決まで	(予習) 刑事裁判の起訴から判決までの流れについて調べる。 (復習) 配付資料などを確認して復習する。	4
第13回	裁判所・裁判官	(予習) 裁判所や裁判官について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第14回	裁判員制度	(予習) 裁判員制度について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
<b>教科書・参考書等</b>			
自作プリントによる。ほか教室でそのつど指示する。			
<b>成績評価方法・基準</b>			
webclass 上で行う毎回の小テストの累計 (40 点) と、期末試験 (60 点) による。積極的な授業参加を評価し、加点する場合がある。			

6	<b>暮らしと心理学</b> FGE-CCS-411	選択 2単位 2年後期	
	Everyday Life and Psychology		
全学科2年全組 教授 小川 和久			
<b>授業の達成目標</b>		<b>授業形態</b>	
日常生活場面での人間行動を心理学の立場からとらえることで、自己理解と他者理解の視点を学ぶ。また、精神的健康を維持するために、心と身体の関係性を理解するとともに、ストレスに関する理解を深め、その知識と対処法を実生活に生かせることを目標とする。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)	
		オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>		<b>該当科目</b>	
パーソナリティ、適応、ストレスの問題等、一般心理学の基礎を知るとともに、人間行動の心理が日々の社会生活とどのように関わっているかを理解していく。とくに現代社会はストレス社会と言われて久しい。メンタルヘルスの問題を理解し、ストレス軽減のために必要な心身のストレスマネジメントの方法を考えていく。		教職科目 (工業)	
		教職科目 (情報)	
		地域志向科目	
<b>実務経験を活かした教育について</b>		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>			
	<b>学習内容 (授業方法)</b>	<b>学習課題 (予習・復習)</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	心の健康とは何か	(予習) シラバスを読んで授業概要を理解してくる。 (復習) ノートを整理する。	4
第2回	パーソナリティ①：類型論	(予習) 「パーソナリティ理論」について調べる。 (復習) ノートを整理する。	4
第3回	パーソナリティ②：特性論	(予習) 「パーソナリティ理論」について調べる。 (復習) ノートを整理する。	4
第4回	パーソナリティ③：タイプA行動パターン	(予習) 「タイプA行動パターン」について調べる。 (復習) ノートを整理する。	4
第5回	交流分析：構造分析・交流パターン分析	(予習) 「交流分析」について調べる。 (復習) ノートを整理する。	4
第6回	欲求と適応①：欲求階層理論	(予習) 「欲求階層理論」について調べる。 (復習) ノートを整理する。	4
第7回	欲求と適応②：フラストレーション反応	(予習) 「フラストレーション」について調べる。 (復習) ノートを整理する。	4
第8回	欲求と適応③：葛藤	(予習) 「葛藤」について調べる。 (復習) ノートを整理する。	4
第9回	ストレスの概念	(予習) 「ストレスの概念」について調べる。 (復習) ノートを整理する。	4
第10回	ストレス理論	(予習) 「ストレス理論」について調べる。 (復習) ノートを整理する。	4
第11回	リフレーミング	(予習) 「リフレーミング」について調べる。 (復習) ノートを整理する。	4
第12回	ストレスと心身症	(予習) 「心身症」について調べる。 (復習) ノートを整理する。	4
第13回	コーピング	(予習) 「コーピング」について調べる。 (復習) ノートを整理する。	4
第14回	心理療法とストレスマネジメント	(予習) 「ストレスマネジメント」について調べる。 (復習) ノートを整理する。	4
<b>教科書・参考書等</b>			
テキスト 自作資料 参考書・参考資料等 適宜指示			
<b>成績評価方法・基準</b>			
各授業での小課題 (70%)、定期試験 (レポート課題) (30%) にもとづき総合的に評価する。各授業での小課題については、授業中にフィードバックする			

<b>7</b>	<b>科学思想史</b> FGE-CCS-412 History of Scientific Thought	選択 2単位 2年後期	
全学科 2年全組 非常勤講師 野家 伸也			
<b>授業の達成目標</b>	科学の思想そのものが問われ、科学と社会の関係、文明における科学の役割が問題とされている現在、古代・中世から近代、現代に至るまでの科学の発達の歴史を、その時代の社会的・思想的諸条件との関連を踏まえて理解できるようにする。	<b>授業形態</b>	
		<input type="radio"/> 単独 <small>(1人が全回担当)</small>	
		<input type="checkbox"/> 複数 <small>(1回の授業を2人以上が一纏に担当)</small>	
		<input type="checkbox"/> オムニバス <small>(各回の担当教員が異なる場合)</small>	
		<input type="checkbox"/> クラス分け <small>(クラス分けで担当する)</small>	
<b>授業の概要</b>	社会の発展は科学によって支えられてきたが、科学の発展もまた社会と緊密な関係を取り結んでいる。科学との連携がいっそう重要となった現代社会の問題を考えるために、本講義では、科学と思想・宗教・文化との関わりを歴史的にみていくこととする。	<b>該当科目</b>	
		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業)	
		<input type="checkbox"/> 教職科目 (情報)	
		<input type="checkbox"/> 地域志向科目	
<b>実務経験を活かした教育について</b>		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>			
	<b>学習内容 (授業方法)</b>	<b>学習課題 (予習・復習)</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	古代ギリシアの科学	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料 (古代ギリシアの科学) などを確認して講義内容を復習する。	4
第2回	古代中国の科学	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料 (古代中国の科学) などを確認して講義内容を復習する。	4
第3回	中世の科学	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料 (中世の科学) などを確認して講義内容を復習する。	4
第4回	ルネサンスの意義	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料 (ルネサンスの意義) などを確認して講義内容を復習する。	4
第5回	科学革命の特質	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料 (科学革命の特質) などを確認して講義内容を復習する。	4
第6回	運動論の変革	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料 (運動論の変革) などを確認して講義内容を復習する。	4
第7回	啓蒙思想の意義	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料 (啓蒙思想の意義) などを確認して講義内容を復習する。	4
第8回	19世紀の諸様相	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料 (19世紀の諸様相) などを確認して講義内容を復習する。	4
第9回	エネルギー概念の成立	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料 (エネルギー概念の成立) などを確認して講義内容を復習する。	4
第10回	生物進化論の誕生	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料 (生物進化論の誕生) などを確認して講義内容を復習する。	4
第11回	相対性理論の誕生	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料 (相対性理論の誕生) などを確認して講義内容を復習する。	4
第12回	量子力学の誕生	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料 (量子力学の誕生) などを確認して講義内容を復習する。	4
第13回	科学の「技術化」	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料 (科学の「技術化」) などを確認して講義内容を復習する。	4
第14回	まとめと試験	第1 - 13回の内容を復習し試験に備える。試験を復習する。	4
<b>教科書・参考書等</b>			
教科書は使用しない。参考書は適宜紹介する。			
<b>成績評価方法・基準</b>			
試験およびレポートを総合して評価する。課題については、授業時に、全体に対しフィードバックを行う。			

8	<b>東北文化史</b> FGE-CCS-413	選択 2単位 2年後期	
	Cultural history of Tohoku		
全学科2年全組 講 師 河内 聡子			
<b>授業の達成目標</b>		<b>授業形態</b>	
東北を舞台としたアニメ、漫画、映画、小説、評論を通じて、東北の諸地域がどのように意識され、表現されているかを考える。東北各県をめぐるイメージや価値観が、従来どのように形成されてきたかをあとづけ、現在どのように変化しているかを理解することを目標とする。また、そのようなイメージの形成および変化の過程で、どのような文脈や背景があるのかを、歴史的な流れの中で把握することを目指す。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>		<b>該当科目</b>	
東北地方の各地域は中央の都に対する周縁の地方として位置づけられ、地方・自然・人情・懐古などのイメージで表現されてきた。この授業では、アニメなどのサブカルチャーを含めて様々な表現作品から東北のイメージを探り、現在までに作られつつある価値観を考えていく。また、東北の中における「宮城」および「仙台」のイメージや位置づけなどについても考察する。参加者には、自分の経験や知識をふまえた、主体的かつ積極的な意見表明を期待する。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (情報) <input type="radio"/> 地域志向科目	
<b>実務経験を活かした教育について</b>		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>			
	<b>学習内容 (授業方法)</b>	<b>学習課題 (予習・復習)</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	ガイダンスー視点と方法ー	【予習】 シラバスを通読の上、準備学習を行う。 【復習】 ガイダンス内容の確認と、コメントを記述する。	4
第2回	東北の物語 1 『くまみこ』(1)ー物語のなかの東北イメージー	【予習】 アニメ『くまみこ』について調べる。 【復習】 講義内容 (東北イメージ) の確認とコメント記述。	4
第3回	東北の物語 2 『くまみこ』(2)ー「地方」と「都会」の関係性ー	【予習】 「地方」と「都会」のイメージについて調べる。 【復習】 講義内容 (地方と都会) の確認とコメント記述。	4
第4回	東北の物語 3 『おもひでぼろぼろ』(1)ー描かれた東北の自然と人ー	【予習】 アニメ『おもひでぼろぼろ』について調べる。 【復習】 講義内容 (東北の自然と人) の確認とコメント記述。	4
第5回	東北の物語 4 『おもひでぼろぼろ』(2)ー理想郷としての東北ー	【予習】 東北の自然について調べる。 【復習】 講義内容 (理想郷としての東北) 確認とコメント記述。	4
第6回	東北の物語 5 『おしん』ーおしんブームと東北ー	【予習】 ドラマ『おしん』について調べる。 【復習】 講義内容 (おしんブーム) の確認とコメント記述。	4
第7回	東北の歴史 1 東北イメージを歴史から問う	【予習】 東北の古代史を調べる。 【復習】 講義内容 (東北の歴史) の確認とコメント記述。	4
第8回	東北の歴史 2 奈良・平安時代ー『アテルイ伝』を見るー	【予習】 「アテルイ」について調べる。 【復習】 講義内容 (『アテルイ伝』) の確認とコメント記述。	4
第9回	東北の歴史 3 鎌倉・室町時代ー『炎立つ』を見るー	【予習】 「奥州藤原氏」について調べる。 【復習】 講義内容 (『炎立つ』) の確認とコメント記述。	4
第10回	東北の歴史 4 江戸時代ー『八重の桜』を見るー	【予習】 「戊辰戦争」について調べる。 【復習】 講義内容 (『八重の桜』) の確認とコメント記述。	4
第11回	東北の文化 1 民俗ー『遠野物語』を読むー	【予習】 『遠野物語』について調べる。 【復習】 講義内容 (『遠野物語』) の確認とコメント記述。	4
第12回	東北の文化 2 文学ー東北の小説を読むー	【予習】 東北出身の文学者について調べる。 【復習】 講義内容 (東北の小説) の確認とコメント記述。	4
第13回	東北の可能性 井上ひさしの言葉から考える	【予習】 「井上ひさし」について調べる。 【復習】 講義内容 (井上ひさしの言葉) の確認とコメント記述。	4
第14回	まとめと試験	【予習】 配付プリント全てについて復習とコメントの総まとめ。 【復習】 試験内容の復習。	4
<b>教科書・参考書等</b>			
毎回プリントを配付し、それによって講義を進める。参考の書籍やURL 等がある場合は講義中に紹介する。			
<b>成績評価方法・基準</b>			
最終テスト (60%) とレポート課題 (2回) (40%) により評価する。課題については、授業時に全体に対しフィードバックを行う。			

<b>9</b>	<b>市民と政治</b> FGE-CCS-510	選択 2単位 3年前期	
Introduction to Politics			
全学科3年全組 教授 片山 文雄			
<b>授業の達成目標</b>	<b>授業形態</b>		
日本政治の現状と考え方に触れ、基礎的な知識を修得し、政治的判断力を養うこと。政治から社会を知ること。	<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)		
<b>授業の概要</b>	<b>該当科目</b>		
政治はわれわれの社会生活を左右する。誰も政治から逃げられない。だから誰もが政治のしくみを理解し、その正しい方向性について考えるべきである。本講義では、政治のしくみと政治的な考え方について、そして現代日本における論点について、具体的に、根本から考える。	<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (情報) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング		
<b>実務経験を活かした教育について</b>			
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>			
	<b>学習内容 (授業方法)</b>	<b>学習課題 (予習・復習)</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	序	(予習) シラバスを読んでくる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第2回	政治とは何か	(予習) 政治とは何かについて調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第3回	権力	(予習) 権力とは何かについて調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第4回	国家 (1) ステイト	(予習) 国家を形成するステイトについて調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第5回	国家 (2) ネイション	(予習) 国家を形成するネイションについて調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第6回	民主主義	(予習) 民主主義について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第7回	日本政治の枠組	(予習) 日本政治の枠組みについて調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第8回	政治家	(予習) 政治家について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第9回	政党 (1) 政党政治	(予習) 政党政治について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第10回	政党 (2) 日本の諸政党	(予習) 日本の諸政党について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第11回	内閣と総理大臣	(予習) 内閣と総理大臣について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第12回	行政部	(予習) 行政部について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第13回	利益団体	(予習) 利益団体について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第14回	マスメディア	(予習) マスメディアについて調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
<b>教科書・参考書等</b>			
自作プリントによる。ほか教室でそのつど指示する。			
<b>成績評価方法・基準</b>			
webclass 上で行う毎回の小テストの累計 (40 点) と、期末試験 (60 点) による。積極的な授業参加を評価し、加点する場合がある。LMS 上でフィードバックする。			

10	<b>産業社会と心理学</b> FGE-CCS-511	選択 2単位 3年前期	
	Industrial Society and Psychology		
全学科3年全組 教授 小川 和久			
<b>授業の達成目標</b>		<b>授業形態</b>	
幸福で安全な人間社会をつくるため、心理学が果たす役割は多々ある。人間行動の基礎を理解することで、ヒューマンエラーや産業事故を防止し、幸福で安全な社会生活を送るための視点を学ぶ。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>		<b>該当科目</b>	
この授業では、知覚、認知、注意、態度、適性など、主に認知心理学、産業心理学、交通心理学、社会心理学のトピックスを取りあげながら、産業事故の背景にある人間側の要因を理解していく。また、産業社会の安全を維持するための心理学アプローチについて考察する。さらに、人間行動の基礎を理解するために、簡便な心理実験を複数回実施する。自ら実験材料を作成し実験を実施するなど、能動的な体験学習を通して、人間行動の原理についての発見学習を促していく。またグループ作業による共同でのデータ整理と分析を通して、課題探求の意識を深めていく。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (情報) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="radio"/> アクティブラーニング	
<b>実務経験を活かした教育について</b>			
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>			
	<b>学習内容 (授業方法)</b>	<b>学習課題 (予習・復習)</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	知覚のしくみ①：ものの見え方	(予習) シラバスを読んで授業概要を理解してくる。 (復習) ノートを整理する。	4
第2回	知覚のしくみ②：錯視の現象	(予習) 「錯視」について調べる。 (予習) ノートを整理する。	4
第3回	知覚のしくみ③：知覚と安全	(予習) 「知覚」について調べる。 (予習) ノートを整理する。	4
第4回	知覚のしくみ④：奥行知覚	(予習) 「奥行知覚」について調べる。 (予習) ノートを整理する。	4
第5回	注意とは①：注意の種類と特徴	(予習) 「注意」について調べる。 (予習) ノートを整理する。	4
第6回	注意とは②：注意の範囲	(予習) 「注意」について調べる。 (予習) ノートを整理する。	4
第7回	注意とは③：選択的注意・分割的注意	(予習) 「注意の理論」について調べる。 (予習) ノートを整理する。	4
第8回	注意とは④：視覚的注意	(予習) 「視覚的注意」について調べる。 (予習) ノートを整理する。	4
第9回	動作と反応①：反応時間	(予習) 「反応時間」について調べる。 (予習) ノートを整理する。	4
第10回	動作と反応②：反応時間と安全	(予習) 「反応時間」について調べる。 (予習) ノートを整理する。	4
第11回	動作と反応③：知覚－運動系の協応	(予習) 「知覚と運動の協応」について調べる。 (予習) ノートを整理する。	4
第12回	認知と態度：リスクテイキングの心理	(予習) 「リスクテイキング」について調べる。 (予習) ノートを整理する。	4
第13回	ヒューマンエラー①：産業事故	(予習) 「産業事故」について調べる。 (予習) ノートを整理する。	4
第14回	ヒューマンエラー②：認知モデル	(予習) 「ヒューマンエラー」について調べる。 (予習) ノートを整理する。	4
<b>教科書・参考書等</b>			
テキスト 自作資料 参考書・参考資料等 適宜指示			
<b>成績評価方法・基準</b>			
各授業での小課題 (70%)、定期試験 (レポート課題) (30%) にもとづき総合的に評価する。各授業での小課題については、授業中にフィードバックする			

11	<b>産業社会と倫理</b> FGE-CCS-512	選択 2単位 3年前期 ※C学科のみ必修	
	Industrial Society and Ethics		
全学科 3年全組 非常勤講師 野家 伸也			
<b>授業の達成目標</b>		<b>授業形態</b>	
倫理観をもって専門技術を応用し、人類福祉の実現、社会の持続・発展に貢献する人材となるための基本的資質を身につける。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input checked="" type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>		<b>該当科目</b>	
産業、工学が社会および地球環境に及ぼす効果、価値に関する理解や責任など、それらに関わる者として社会に対する責任を自覚する能力を身につける。産業や工学の究極目的が人類の福祉の実現であること、また産業に携わる者や技術者の倫理観の欠如が、福祉とは逆に、社会および地球環境にとって大きな問題を生ぜしめている現状を理解する。ついで具体的な事例における倫理的な価値判断の方法を学ぶ。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 (情報) 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
<b>実務経験を活かした教育について</b>			
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	ガイダンス	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料 (ガイダンス) などを確認して講義内容を復習する。	4
第2回	産業社会における技術者の倫理と責任 概説	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料 (産業社会における技術者の倫理と責任 概説) などを確認して講義内容を復習する。	4
第3回	倫理的判断の方法	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料 (倫理的判断の方法) などを確認して講義内容を復習する。	4
第4回	技術者の責任	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料 (技術者の責任) などを確認して講義内容を復習する。	4
第5回	社会の中の技術者	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料 (社会の中の技術者) などを確認して講義内容を復習する。	4
第6回	社会の中の技術者	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料 (社会の中の技術者) などを確認して講義内容を復習する。	4
第7回	地球環境問題と技術者	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料 (地球環境問題と技術者) などを確認して講義内容を復習する。	4
第8回	地球環境問題と技術者	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料 (地球環境問題と技術者) などを確認して講義内容を復習する。	4
第9回	プロフェッショナルとしての技術者	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料 (プロフェッショナルとしての技術者) などを確認して講義内容を復習する。	4
第10回	プロフェッショナルとしての技術者	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料 (プロフェッショナルとしての技術者) などを確認して講義内容を復習する。	4
第11回	地域の中の技術者	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料 (地域の中の技術者) などを確認して講義内容を復習する。	4
第12回	地域の中の技術者	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料 (地域の中の技術者) などを確認して講義内容を復習する。	4
第13回	研究者としての責任と倫理	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料 (研究者としての責任と倫理) などを確認して講義内容を復習する。	4
第14回	まとめと試験	第1 - 13回の内容を復習し試験に備える。試験を復習する。	4
<b>教科書・参考書等</b>			
教科書は使用しない。参考書は適宜紹介する。			
<b>成績評価方法・基準</b>			
試験およびレポートを総合して評価する。課題については、授業時に、全体に対しフィードバックを行う。			

12	<b>情報社会の経済</b> FGE-CCS-610	選択 2単位 3年後期	
	Information Society Economics		
全学科3年全組 非常勤講師 舩谷 謙二			
<b>授業の達成目標</b>		<b>授業形態</b>	
情報化社会における基本的な経済の仕組みを理解し、日本経済の現状を分析する力を養います。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)	
		オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>		<b>該当科目</b>	
構造改革、累積する国債、少子・高齢化と年金といった問題が山積している日本経済は、この先、安定的な成長路線に復帰できるのでしょうか。この講義では、戦後の復興期、高度成長期から平成の「失われた20年」までを振り返りながら、第9回までは日本経済、それ以降は日本企業の全体像を解説し、金融・財政の仕組みにも言及しながら、今日の我々をとりまく経済の諸問題について考察する。		教職科目 (工業)	
		教職科目 (情報)	
		地域志向科目	
<b>実務経験を活かした教育について</b>		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>			
	<b>学習内容 (授業方法)</b>	<b>学習課題 (予習・復習)</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	今日の情報化社会と経済 (オリエンテーション)	(予習) シラバス通読の上、準備学習を行う。 (復習) 配付プリント再確認。第1回講義内容確認問題解答。	4
第2回	日本と世界の経済の概況	(予習) プリント「日本と世界の経済の概況」を使い予習。 (復習) プリント再確認。第2回講義内容確認問題解答。	4
第3回	戦後日本経済の歩み (復興期を中心に)	(予習) プリント「戦後日本経済の歩み」を使い予習。 (復習) プリント再確認。第3回講義内容確認問題解答。	4
第4回	高度経済成長の時代	(予習) プリント「高度経済成長の時代」を使い予習。 (復習) プリント再確認。第4回講義内容確認問題解答。	4
第5回	ニクソン・ショックとオイルショック	(予習) プリント「ニクソン・ショックとオイルショック」を確認。 (復習) プリント再確認。第5回講義内容確認問題解答。	4
第6回	貨幣と金融システム	(予習) プリント「貨幣と金融システム」を使い予習。 (復習) プリント再確認。第6回講義内容確認問題解答。	4
第7回	バブル経済の発生と崩壊	(予習) プリント「バブル経済の発生と崩壊」を使い予習。 (復習) プリント再確認。第7回講義内容確認問題解答。	4
第8回	失われた20年	(予習) プリント「失われた20年」を使い予習。 (復習) プリント再確認。第8回講義内容確認問題解答。	4
第9回	世界経済危機と日本経済	(予習) プリント「世界経済危機と日本経済」を使い予習。 (復習) プリント再確認。第9回講義内容確認問題解答。	4
第10回	情報社会の企業経営	(予習) プリント「情報社会の企業経営」を使い予習。 (復習) プリント再確認。第10回講義内容確認問題解答。	4
第11回	企業経営とヒト・モノ	(予習) プリント「企業経営とヒト・モノ」を使い予習。 (復習) プリント再確認。第11回講義内容確認問題解答。	4
第12回	企業の投資決定	(予習) プリント「企業の投資決定」を使い予習。 (復習) プリント再確認。第12回講義内容確認問題解答。	4
第13回	企業統治と社会的責任	(予習) プリント「企業統治と社会的責任」を使い予習。 (復習) プリント再確認。第13回講義内容確認問題解答。	4
第14回	まとめ (振り返りと展望)	(予習) プリント「まとめ (振り返りと展望)」を使い予習。 (復習) プリント再確認。第14回講義内容確認問題解答。	4
<b>教科書・参考書等</b>			
教科書は使わず、毎回プリントを配付し、それにしたがって講義を進めます。映像資料も使います。参考書がある場合は講義中に紹介します。			
<b>成績評価方法・基準</b>			
課題レポート (50%) と内容理解度確認問題 (50%) で総合的に評価する。課題については、授業時に、全体に対しフィードバックを行う。			

<b>13</b>	<b>日本国憲法</b> FGE-CCS-611	選択 2単位 3年後期	
The Constitution of Japan			
全学科3年全組 教授 片山 文雄			
<b>授業の達成目標</b>	<b>授業形態</b>		
日本国憲法の歴史と考え方に触れ、基礎的な知識を修得すること。憲法から社会を知ること。	<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)		
<b>授業の概要</b>	<b>該当科目</b>		
いま憲法をめぐる議論は極めて重要な政治的論点になっている。憲法の基本と役割を知るとはますます必要である。本講義では、憲法とは何か、その機能は何かについて、具体的に、根本から考える。	<input type="radio"/> 教職科目 (工業) <input type="radio"/> 教職科目 (情報) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング		
<b>実務経験を活かした教育について</b>			
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>			
	<b>学習内容 (授業方法)</b>	<b>学習課題 (予習・復習)</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	序	(予習) シラバスを読んでくる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第2回	憲法の原理：立憲主義と民主主義	(予習) 立憲主義と民主主義について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第3回	日本国憲法成立史	(予習) 日本国憲法成立の歩みについて調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第4回	国民主権	(予習) 国民主権について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第5回	国会	(予習) 国会について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第6回	内閣	(予習) 内閣について調べする。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第7回	裁判所	(予習) 裁判所について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第8回	人権の原理	(予習) 基本的人権の原理について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第9回	人権保障の方法：選挙と司法審査	(予習) 人権保障について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第10回	自由権 (1) 包括的自由権、表現の自由	(予習) 包括的自由権、表現の自由などについて調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第11回	自由権 (2) 信教の自由・政教分離、人身の自由	(予習) 信教の自由・政教分離、人身の自由について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第12回	自由権 (3) 経済的自由権、平等権、参政権	(予習) 経済的自由権、平等権、参政権について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第13回	社会権、義務	(予習) 社会権、義務について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第14回	平和主義	(予習) 平和主義について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
<b>教科書・参考書等</b>			
日本国憲法の全文 (講談社学術文庫版を推奨する)、『憲法判例集』(有斐閣新書)、そして毎回配付する自作プリントによる。ほか教室でそのつど指示する。			
<b>成績評価方法・基準</b>			
webclass 上で行う毎回の小テストの累計 (40 点) と、期末試験 (60 点) による。積極的な授業参加を評価し、加点する場合がある。LMS 上でフィードバックする。			

14	<b>現代の哲学</b> FGE-CCS-710	選択 2単位 4年前期	
	Modern Philosophy		
全学科 4年全組 非常勤講師 野家 伸也			
<b>授業の達成目標</b>		<b>授業形態</b>	
国家論・市民社会論を中心テーマとして西洋近代思想史の流れを辿り、現代社会の理解に役立てる。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)	
		オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>		<b>該当科目</b>	
17世紀から19世紀にかけての市民革命をめぐる言説を学ぶことで「国家とは何か」「社会とは何か」について問う姿勢を養う。		教職科目(工業)	
		教職科目(情報)	
		地域志向科目	
<b>実務経験を活かした教育について</b>		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
<b>授業計画(各回の学習内容等)</b>			
	<b>学習内容(授業方法)</b>	<b>学習課題(予習・復習)</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	市民革命の時代	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料(市民革命の時代)などを確認して講義内容を復習する。	4
第2回	ピューリタン革命と名誉革命	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料(ピューリタン革命と名誉革命)などを確認する。	4
第3回	啓蒙主義の国家観・社会観(1) - ロック	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料(ロック)などを確認して講義内容を復習する。	4
第4回	啓蒙主義の国家観・社会観(2) - ロックと市民革命	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料(ロックと市民革命)などを確認して講義内容を復習する。	4
第5回	フランス革命	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料(フランス革命)などを確認して講義内容を復習する。	4
第6回	啓蒙主義の国家観・社会観(3) - ルソー	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料(ルソー)などを確認して講義内容を復習する。	4
第7回	啓蒙主義の国家観・社会観(4) - ルソーと市民革命	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料(ルソーと市民革命)などを確認して講義内容を復習する。	4
第8回	ロマン主義の国家観・社会観(1) - バーク	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料(バーク)などを確認して講義内容を復習する。	4
第9回	ロマン主義の国家観・社会観(2) - バークと市民革命	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料(バークと市民革命)などを確認して講義内容を復習する。	4
第10回	ナポレオン戦争	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料(ナポレオン戦争)などを確認して講義内容を復習する。	4
第11回	ヘーゲルの国家観・社会観(1) - ヘーゲル	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料(ヘーゲル)などを確認して講義内容を復習する。	4
第12回	ヘーゲルの国家観・社会観(2) - ヘーゲルと市民革命	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料(ヘーゲルと市民革命)などを確認して講義内容を復習する。	4
第13回	マルクスの国家観・社会観 - マルクスと市民革命	関連するキーワードについて調べて予習する。配付資料(マルクスと市民革命)などを確認して講義内容を復習する。	4
第14回	まとめと試験	第1 - 13回の内容を復習し試験に備える。試験を復習する。	4
<b>教科書・参考書等</b>			
教科書は使用しない。参考書は適宜紹介する。			
<b>成績評価方法・基準</b>			
試験およびレポートを総合して評価する。課題については、授業時に、全体に対しフィードバックを行う。			

15	<b>ライフ・キャリアデザイン論 I</b>	FGE-CCS-320	選択 2単位 2年前期
	Life carrier design theory I		
全学科2年全組 非常勤講師 手戸 和喜			
<b>授業の達成目標</b>		<b>授業形態</b>	
<p>将来について真剣に自分事として考える力を習得する。自分は何がしたいのか？どのような人生を望むのか？人間関係は？将来の仕事は？これからの大学生活で何を学び経験するかや専門科目にどう取り組んでいくかを考えながら、変化する社会や地域の中の自己を認識理解し位置付ける。 『自分はどう思うか』を問い続け、自分自身に対する理解を促進し生き方や働き方を考えられるように実践的に学び、自分の目標や夢を具体的に描けるようになることを目指す。それにより、大学までの学びや経験と関連させながら、多様な視点を持った考え方や捉え方を持ち、自身のライフデザインを立案するために活用できるようになることと、自ら選択し決断できる思考と行動力を醸成する。</p>		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏めに担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>		<b>該当科目</b>	
<p>大学生の現在において、多様で複雑な社会の中で自分の人生や働き方を考えることが重要である。自分の未来を自分で描くことにより、自分の将来について熟考することは大学の学びを深めることにもつながる。大学生活を自分で割り、それを将来の自分のキャリアと関連付けさせる。そのために実践的な形式とコミュニケーションを重視する。学生生活、今までの経験、自分の将来、社会の動きなどの多様な問いに対して、自分の考えを言語化する。正解がある訳ではない人生と捉え、失敗を恐れずに挑戦し、その繰り返しの中で自分の成長につなげていく。就職活動のためのノウハウやスキルではなく、社会や他者の多様な考えや視点を知り、『自分で考える』ことを実践する。社会人に移行する上で必要になる主体的に自分の『大学の学びと経験』『生き方』をともに考えていく。</p>		<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当 <input type="radio"/> アクティブラーニング	
<b>実務経験を活かした教育について</b>		<p>キャリアコンサルタントとして大学生のキャリア形成、組織の人材育成や在職者のキャリア形成等の支援経験を活かし、多様で目まぐるしい現代において自身のキャリアに期待を持ち具体的なキャリアデザインの思考力の習得を促す。</p>	
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>			
	<b>学習内容 (授業方法)</b>	<b>学習課題 (予習・復習)</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	ガイダンス キャリアデザインの必要性	予習：キャリアについて調べる 復習：授業を振り返る	4
第2回	コミュニケーションの基本を知る	予習：自分のコミュニケーションについて考えてみる 復習：授業を振り返る。	4
第3回	過去の経験を振り返り、自分の未来を想像する	予習：これまでの自分の経験を振り返る 復習：授業で整理しなかった経験を振り返る	4
第4回	価値観に沿った生き方	予習：自分の価値観について考えてみる 復習：自分の価値観に沿った生き方を考えてみる	4
第5回	グループディスカッション (第1～4回について)	予習：これまでの授業を振り返る 復習：自分のコミュニケーションを振り返る	4
第6回	考える力を養う	予習：浦島太郎の物語を調べておく 復習：授業を振り返る	4
第7回	労働法を知る ブラックバイト問題を考える	予習：ブラックバイトについて調べてみる 復習：アルバイト経験を振り返る	4
第8回	ニュースやデータから社会を知る	予習：新聞を読み、現在の社会の特徴を考えてみる 復習：社会と自分のつながりを考えてみる	4
第9回	グループディスカッション (第6～8回について)	予習：これまでの授業を振り返る 復習：自分のコミュニケーションを振り返る	4
第10回	何のために働くのか 働く意味を考え、自分にとっての「やりがい」を考える	予習：自分自身の働く意味を考え、「[やりがい]」を考えてみる 復習：授業を振り返る	4
第11回	自分にとっての「幸せな働き方」を考える	予習：自分にとっての「幸せ」を考えてみる 復習：授業を振り返る	4
第12回	自身の人生をデザインする	予習：卒業後の人生について考えてみる 復習：在学中にやるべきこと考える	4
第13回	グループディスカッション (第10～12回について)	予習：これまでの授業を振り返る 復習：自分のコミュニケーションを振り返る	4
第14回	表現する プレゼンテーション	予習：自分自身を客観的に見てみる 復習：授業を振り返る	4
<b>教科書・参考書等</b>			
テキストは使用せず、講義時にプリントを配付する。			
<b>成績評価方法・基準</b>			
<p>①毎講義後提出の小テスト・小レポート (50%)          ②第5回・第9回・第13回後提出のレポート (50%) (フィードバックは次回授業時、全体にフィードバックを行う)          以上①②を総合的に評価し、合わせて60%以上に達した者に単位を認定する。</p>			

<b>16</b>	<b>ライフ・キャリアデザイン論Ⅱ</b>	FGE-CCS-521	選択 2単位 3年前期
Life carrier design theory II			
全学科2年全組 非常勤講師 手戸 和喜			
<b>授業の達成目標</b>		<b>授業形態</b>	
ライフ・キャリアデザイン論Ⅰで学んだ内容をさらに発展させる。具体的には、自分の夢や目標をより具体的にデザインできるようになり、社会で自立して生きる覚悟を持つ。 将来について真剣に自分事として考え、『自分の将来を思い描き、自分で選び決める』力を習得する。大学生活での学びと経験、専門科目を今後の社会人生活に関連付けさせる。そのために、目まぐるしく複層的に変化する社会において求められる人物像を想像することで、自らが身に付けるべき力を知り、様々な事象を検証しながら、短期視点だけではなく中長期の視点を身に付け、自ら選択し決断できる思考と行動力を醸成する。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>		<b>該当科目</b>	
何故キャリアをデザインする必要があるのか？キャリアデザイン論Ⅰで学んだことをさらに発展させる。学生時代も就職してからも、将来の働き方、生き方を自分でデザインすることは重要である。場合によっては修正し、再設計、再々設計していくことが必要になってくる。そのために実践的な形式とコミュニケーションを重視し進行する。個人、グループ、全体でワークを展開し、自分の考えや夢と向き合い明確にしていく。社会の現実に向け、社会人へ移行するための視点や考えを養う。そのため、多様な観点の問いに対し自分なりの考えを持ち、他者の意見に耳を傾け言語化していく。就職活動に役立つノウハウやスキルも学びながら、自分に存在する強みや資源をどう活かすかを考察し、連続する社会人生活に必要な考察する力と表現する力の重要性を共に考えていく。		<input type="radio"/> 教職科目 (工業) <input type="radio"/> 教職科目 (情報) <input type="radio"/> 地域志向科目	
<b>実務経験を活かした教育について</b>		<b>実務経験のある教員担当</b>	
キャリアコンサルタントとして大学生のキャリア形成、組織の人材育成や在職者のキャリア形成等の支援経験を活かし、多様で目まぐるしい現代において自身のキャリアに期待を持ち具体的なキャリアデザインの思考力の習得を促す。		<input type="radio"/> アクティブラーニング	
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>			
	<b>学習内容 (授業方法)</b>	<b>学習課題 (予習・復習)</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	ガイダンス 人生100年時代を生きる	予習：社会と自分のキャリアについて考えておく 復習：自分のキャリアをどう構築していくか考える	4
第2回	ライフステージの変化に備える 早期離職問題から考える	予習：学生生活と社会人生活の違いを考えてみる 復習：授業を振り返る	4
第3回	非正規雇用者の働き方から労働環境を考える	予習：雇用形態について調べてみる 復習：授業を振り返る	4
第4回	グループディスカッション (第1～3回について)	予習：これまでの授業を振り返る 復習：自分のコミュニケーションを振り返る	4
第5回	労働環境と労働意欲について考える	予習：労働環境について調べてみる 復習：授業を振り返る	4
第6回	「社会人基礎力」から社会に求められる人材像を考える	予習：社会で活躍する自分を想像してみる 復習：授業を振り返る	4
第7回	「採用担当者の視点」から社会に求められる人材像を考える	予習：他者から評価される自分を考えてみる 復習：授業を振り返る	4
第8回	グループディスカッション (第5～7回について)	予習：これまでの授業を振り返る 復習：自分のコミュニケーションを振り返る	4
第9回	自分の軸と社会の動向から職業を考える	予習：自分自身の選択基準を考えてみる 新聞を読む 復習：授業を振り返る	4
第10回	自分にとっての「幸せな働き方」を考える	予習：自分にとっての「幸せ」を考えてみる 復習：授業を振り返る	4
第11回	グループディスカッション (第9、10回について)	予習：これまでの授業を振り返る 復習：自分のコミュニケーションを振り返る	4
第12回	エントリーシートを知る・書く	予習：これまでの自分の経験を振り返る 復習：授業を振り返る	4
第13回	ミッションからキャリアデザインを考える	予習：自分の役割と人生を考えてみる 復習：今できることを考えて行動してみる	4
第14回	表現する プレゼンテーション	予習：自分自身を客観的に見てみる 復習：授業を振り返る	4
<b>教科書・参考書等</b>			
テキストは使用せず、講義時にプリントを配付する。			
<b>成績評価方法・基準</b>			
毎講義後提出の小テスト・小レポート 60%、グループディスカッション・プレゼンテーション後提出のレポート 40% (フィードバックは次回授業時、全体にフィードバックを行う)			

17	<b>職業指導（工業）</b> FGE-CCS-531	選択 2単位 3年前期 ※「工業」の免許状取得希望者のみ必修	
		Vocational Guidance	
全学科3年全組 教授 小川 和久 准教授 中島 夏子			
<b>授業の達成目標</b>		<b>授業形態</b>	
工業社会で働くことになる生徒の指導にあたり、教師はまず適正な職業観をもつことが求められる。また教師は、生徒がモノ作りなどの生産の仕事に個人の成長と幸福感を得ることができるように、自己発見や自己理解が重要なことも指導する必要がある。その上で、現代の工業社会で課題となる職業選択、職業適性、能力開発等について基礎を学習し、生徒の主体的な問題発見と問題解決能力を育成するための教育の方法を習得するものとする。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏めに担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>		<b>該当科目</b>	
現代社会の工業技術の変化は日進月歩で著しいものがあり、創造的な能力と適性が以前よりも増して強く求められている。一方で、旧き技術を大切にしながら、新たな工業技術の創造に努める工業社会の歴史と適性の概念の変遷を学ぶことも重要であり、職業観の形成、職業技能の習得過程、職業適性の諸理論の理解を通して、モノ作りを支える人たちのキャリア形成の問題に触れる。さらに、工業高校でのキャリア教育の授業計画作成をグループワークで行うことを通して、教育実践の具体例を学んでいく。		<input type="checkbox"/> 教職科目（工業） <input type="checkbox"/> 教職科目（情報） <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
<b>実務経験を活かした教育について</b>			
<b>授業計画（各回の学習内容等）</b>			
	<b>学習内容（授業方法）</b>	<b>学習課題（予習・復習）</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	工業科における職業指導とは何か（中島）	（予習）シラバスを読んで授業概要を理解してくる。 （復習）ノート・配付資料などを確認する。	4
第2回	なぜ人は働くのか（小川）	（予習）「勤労観・職業観」について調べる。 （復習）ノート・配付資料などを確認する。	4
第3回	キャリア教育実践① 自己分析と適性（中島）	（予習）「キャリアプランと自己分析」について調べる。 （復習）ノート・配付資料などを確認する。	4
第4回	キャリア教育実践② キャリアプラン（中島）	（予習）「キャリアプランと自己分析」について調べる。 （復習）ノート・配付資料などを確認する。	4
第5回	キャリア教育実践③ 工業科における実践例（中島）	（予習）「キャリア教育実践」について調べる。 （復習）ノート・配付資料などを確認する。	4
第6回	職業選択と適性① 職業興味検査（小川）	（予習）「職業興味」について調べる。 （復習）ノート・配付資料などを確認する。	4
第7回	職業選択と適性② 適性の概念（小川）	（予習）「職業適性」について調べる。 （復習）ノート・配付資料などを確認する。	4
第8回	キャリア発達と諸理論（小川）	（予習）「キャリア発達」について調べる。 （復習）ノート・配付資料などを確認する。	4
第9回	職業技能① 職業技能の習得過程（小川）	（予習）「職業技能」について調べる。 （復習）ノート・配付資料などを確認する。	4
第10回	職業技能② 技能学習の訓練方法とその理論（小川）	（予習）「職業技能」について調べる。 （復習）ノート・配付資料などを確認する。	4
第11回	キャリア教育の授業設計① 目的・目標（中島）	（予習）「キャリア教育の授業設計」について調べる。 （復習）ノート・配付資料などを確認する。	4
第12回	キャリア教育の授業設計② 方法（中島）	（予習）「キャリア教育の授業設計」について調べる。 （復習）ノート・配付資料などを確認する。	4
第13回	工業科におけるキャリア教育の指導案作成① グループ協議と作成（小川）	（予習）「キャリア教育の指導案」について調べる。 （復習）ノート・配付資料などを確認する。	4
第14回	工業科におけるキャリア教育の指導案作成② 報告会（小川）	（予習）「キャリア教育の指導案」について調べる。 （復習）ノート・配付資料などを確認する。	4
<b>教科書・参考書等</b>			
テキスト 自作資料 参考書・参考資料等 適宜提示			
<b>成績評価方法・基準</b>			
グループ協議とその発表内容（20%）、複数回提出を求めるレポートの内容（80%）にもとづき総合的に評価する。発表内容およびレポート内容については、授業中にフィードバックする。			

<b>18</b>	<b>情報社会とモラル</b> EAGE-CCS-532	選択 2単位 3年前期 ※「情報」の免許状取得希望者のみ必修	
Ethical and Legal Issues of the Information Society			
全学科3年全組 教授 片山 文雄			
<b>授業の達成目標</b>	<b>授業形態</b>		
情報社会における法的ないし道徳的諸問題について具体的に学び、問題解決の方向性について、自ら考慮し判断する力を養う。	<input type="radio"/>	単独 (1人が全回担当)	
		複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)	
		オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>	<b>該当科目</b>		
本講義は高校教員免許状の取得をめざし、教職課程を履修している学生を主な対象とする講義である。情報社会において深刻化している法的ないし道徳的問題をどう解決すべきかについては、なお模索が続いている。本講義では、情報社会についての社会科学的概観を踏まえて、主にプライバシーと知的財産権（とくに著作権）という二つの重要トピックを、倫理的・法学的見地から講義する。		教職科目（工業）	
	<input type="radio"/>	教職科目（情報）	
		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
<b>実務経験を活かした教育について</b>		アクティブラーニング	
<b>授業計画（各回の学習内容等）</b>			
	<b>学習内容（授業方法）</b>	<b>学習課題（予習・復習）</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	情報	(予習) シラバスを読んで授業概要を理解してくる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第2回	情報社会（1）経済の観点から	(予習) 経済と情報について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第3回	情報社会（2）政治の観点から	(予習) 政治と情報について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第4回	プライバシー権	(予習) プライバシー権について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第5回	プライバシー権（平穏生活権）の判例	(予習) 平穏生活権の判例について調べる。 (復習) 配付資料などを確認して復習する。	4
第6回	プライバシー権（自己情報コントロール権）の判例	(予習) 自己情報コントロール権の判例について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第7回	個人情報保護法制（1）アメリカ、EU	(予習) アメリカ、EUの個人情報保護法制について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第8回	個人情報保護法制（2）日本	(予習) 日本の個人情報保護法制について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第9回	知的財産権	(予習) 知的財産権について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第10回	著作権	(予習) 著作権について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第11回	著作権の主体	(予習) 著作権の主体について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第12回	著作権の保護	(予習) 著作権の保護の仕方、内容について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第13回	著作権をめぐる諸問題	(予習) 近年の著作権問題について調べる。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
第14回	まとめと試験	(予習) 内容を復習し試験に備える。 (復習) 配付資料などを確認する。	4
<b>教科書・参考書等</b>			
自作プリントによる。ほかインターネット上の資料などについて教室で指示する。			
<b>成績評価方法・基準</b>			
webclass 上で行う毎回の小テストの累計（40点）と、期末試験（60点）による。積極的な授業参加を評価し、加点する場合がある。LMS 上でフィードバックする。			

19	<b>情報と職業</b> EAGE-CCS-633	選択 2単位 3年後期 ※「情報」の免許状取得希望者のみ必修	
	Information Technology and Occupations		
全学科 3年全組 非常勤講師 佐藤 亨			
<b>授業の達成目標</b>		<b>授業形態</b>	
1. 情報社会における企業環境の変遷及び変化について理解する。 2. 企業のIT (Information Technology) 化における現状と課題について理解する。 3. 「職業人としての在り方・生き方」を考察し、職業について理解を深める。		○ 単独 (1人が全回担当) 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>		<b>該当科目</b>	
本講義は、高等学校教員免許の取得を目指し、教職課程を履修している学生を対象とする講義である。情報社会における産業・就業構造、さらにビジネス・労働環境等の変遷及び変化について学習し、倫理観、職業観、就労観について考察する。そして、「職業人としての生き方・在り方」を考えることができる講義内容とする。		○ 教職科目 (工業) ○ 教職科目 (情報) 地域志向科目	
<b>実務経験を活かした教育について</b>		○ 実務経験のある教員担当 アクティブラーニング	
担当教員は、高等学校教員としての経験と実績を生かし、学校教育の現場で教えられている内容を踏まえて、社会の変化に対応した生きた知識を教授する。			
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>			
	<b>学習内容 (授業方法)</b>	<b>学習課題 (予習・復習)</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	学習内容についてのガイダンス	(予習) シラバスで学習内容を確認する。 (復習) 配付資料を確認するとともに、受講内容についての質問や意見、感想等をまとめる。	4
第2回	情報社会と職業	(予習) 情報社会における職業について調べる。 (復習) 配付資料を確認するとともに、受講内容についての質問や意見、感想等をまとめる。	4
第3回	社会基盤としての情報化 ① 情報化と高度情報通信社会	(予習) 社会基盤としての情報化における高度情報通信社会について調べる。 (復習) 配付資料を確認するとともに、受講内容についての質問や意見、感想等をまとめる。	4
第4回	社会基盤としての情報化 ② 家庭・学校・公共施設等の情報化	(予習) 社会基盤としての情報化における家庭・学校・公共施設等について調べる。 (復習) 配付資料を確認するとともに、受講内容についての質問や意見、感想等をまとめる。	4
第5回	情報社会と企業・産業構造の変化 ① 産業構造の転換と就業構造の推移	(予習) 産業構造の転換と就業構造の推移について調べる。 (復習) 配付資料を確認するとともに、受講内容についての質問や意見、感想等をまとめる。	4
第6回	情報社会と企業・産業構造の変化 ② 流通情報及び金融ネットワークシステム	(予習) 流通情報及び金融ネットワークシステムについて調べる。 (復習) 配付資料を確認するとともに、受講内容についての質問や意見、感想等をまとめる。	4
第7回	情報社会とビジネス	(予習) 情報社会におけるビジネスについて調べる。 (復習) 配付資料を確認するとともに、受講内容についての質問や意見、感想等をまとめる。	4
第8回	情報化におけるビジネス環境の変化 ① 販売(小売業)における情報活用	(予習) 販売(小売業)における情報活用について調べる。 (復習) 配付資料を確認するとともに、受講内容についての質問や意見、感想等をまとめる。	4
第9回	情報化におけるビジネス環境の変化 ② 戦略的な情報活用	(予習) 戦略的な情報活用について調べる。 (復習) 配付資料を確認するとともに、受講内容についての質問や意見、感想等をまとめる。	4
第10回	企業における情報活用 ① 製造業における情報システム	(予習) 製造業における情報システムについて調べる。 (復習) 配付資料を確認するとともに、受講内容についての質問や意見、感想等をまとめる。	4
第11回	企業における情報活用 ② 経営情報を管理するためのコンピュータの活用	(予習) 経営情報を管理するためのコンピュータの活用について調べる。 (復習) 配付資料を確認するとともに、受講内容についての質問や意見、感想等をまとめる。	4
第12回	働く環境の変化	(予習) 働く環境の変化について調べる。 (復習) 配付資料を確認するとともに、受講内容についての質問や意見、感想等をまとめる。	4
第13回	労働観の変化	(予習) 労働観の変化について調べる。 (復習) 配付資料を確認するとともに、受講内容についての質問や意見、感想等をまとめる。	4
第14回	情報社会における犯罪と法制度 まとめ	(予習) 情報社会における犯罪と法制度について調べる。 (復習) 配付資料を確認するとともに、受講内容についての質問や意見、感想等をまとめる。	4
<b>教科書・参考書等</b>			
自作教材 <参考書等> : 「情報と職業」 : 丸善 (株)、「情報と職業」 オーム社、「最新情報産業と社会」 : 実教出版 (株)			
<b>成績評価方法・基準</b>			
レポート提出、課題等によるグループワーク及び発表等により評価する。 レポート2回 (60%)、グループワーク及び発表 (40%)。 LMS 上でフィードバックする。			

<b>20</b>	<b>工業概論</b> FGE-CCS-301	選択 2単位 3年前期 ※「工業」の免許状取得希望者のみ必修	
Introduction to Industry			
全学科 3年全組 非常勤講師 萩野 元彦			
<b>授業の達成目標</b>	<b>授業形態</b>		
現代社会における工業の意義や役割を理解し、「どのようなものを、いかに作るか」を問い直す意識をもって、工業の各分野に関する基礎的な知識と技術・技能を修得することで、将来高等学校の工業教育にかかわる際に必要な資質を養うこと。それを通じて、工業高校の生徒に対して指導者として教育を行うために必要となる、工業教育への自信と力量を備えること。	<input type="radio"/>	単独 (1人が全回担当)	
		複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)	
		オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>	<b>該当科目</b>		
本講義は、高等学校教員免許の取得を目指し、教職課程を履修している学生を対象とする講義である。高等学校において生徒に工業系科目の授業を提供するために必要となる、工業教育全体にかかわる機械、電気、情報、建築、化学の各分野のエッセンスを、演習や実習の要素を交えながら、問題演習に重点を置きつつ、幅広く講ずる。技術者としての倫理観や実践的な技術を修得させ、環境およびエネルギーに配慮しつつ、工業技術に関する諸問題を主体的・合理的に解決し、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を養う。	<input type="radio"/>	教職科目 (工業)	
		教職科目 (情報)	
		地域志向科目	
<b>実務経験を活かした教育について</b>	<input type="radio"/>	実務経験のある教員担当	
担当教員は、工業高校教員としての経験と実績を生かし、工業教育の現場で使われている生きた知識や指導法を教授する。		アクティブラーニング	
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>			
	<b>学習内容 (授業方法)</b>	<b>学習課題 (予習・復習)</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	人と技術、工具の基礎	(予習) 教科書の該当箇所を予習する。 (復習) 配付資料などを参考に、工具について復習する。	4
第2回	製図法と測定法の基礎	(予習) 教科書の該当箇所を予習する。 (復習) 配付資料などを参考に、製図法と測定法について復習する。	4
第3回	材料の性質と加工法の基礎	(予習) 教科書の該当箇所を予習する。 (復習) 配付資料などを参考に、材料の性質と加工法について復習する。	4
第4回	機械加工の基礎	(予習) 教科書の該当箇所を予習する。 (復習) 配付資料などを参考に、機械加工について復習する。	4
第5回	機械工作の基礎	(予習) 教科書の該当箇所を予習する。 (復習) 配付資料などを参考に、機械工作について復習する。	4
第6回	電気回路の基礎	(予習) 教科書の該当箇所を予習する。 (復習) 配付資料などを参考に、電気回路について復習する。	4
第7回	論理回路の基礎	(予習) 教科書の該当箇所を予習する。 (復習) 配付資料などを参考に、論理回路について復習する。	4
第8回	コンピュータ制御の基礎	(予習) 教科書の該当箇所を予習する。 (復習) 配付資料などを参考に、コンピュータ制御について復習する。	4
第9回	制御回路の基礎	(予習) 教科書の該当箇所を予習する。 (復習) 配付資料などを参考に、制御回路について復習する。	4
第10回	化学工業の基礎	(予習) 教科書の該当箇所を予習する。 (復習) 配付資料などを参考に、化学工業について復習する。	4
第11回	部材と力の基礎	(予習) 教科書の該当箇所を予習する。 (復習) 配付資料などを参考に、部材と力について復習する。	4
第12回	測定の基礎	(予習) 教科書の該当箇所を予習する。 (復習) 配付資料などを参考に、測定について復習する。	4
第13回	住宅の計画基礎	(予習) 教科書の該当箇所を予習する。 (復習) 配付資料などを参考に、住宅計画について復習する。	4
第14回	デザインの基礎 まとめ	(予習) 教科書の該当箇所を予習する。 (復習) 配付資料などを参考に、デザインについて復習する。	4
<b>教科書・参考書等</b>			
教科書「工業技術基礎」実教出版、山下省蔵ほか 東北工業大学教職課程センター教材プリント			
<b>成績評価方法・基準</b>			
レポートおよび試験により総合的に評価する。 LMS上でフィードバックする。			

21	<b>フランスの文化と言葉</b> FGE-CCS-260	選択 2単位 1年後期	
	Culture and Language of France		
全学科1年全組 非常勤講師 玉田優花子			
<b>授業の達成目標</b>		<b>授業形態</b>	
世界の多様な社会・言語についての基礎的な知識を身につけ、異文化に対する関心を深める。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)	
		オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>		<b>該当科目</b>	
フランスの歴史・文化・社会について、日本との比較を通して理解を深める。同時に初歩的なフランス語文法、会話を学び、フランスという国についての理解をさらに深める。		教職科目 (工業)	
		教職科目 (情報)	
		地域志向科目	
<b>実務経験を活かした教育について</b>		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>			
	<b>学習内容 (授業方法)</b>	<b>学習課題 (予習・復習)</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	ガイダンス	(予習) シラバスの通読 (復習) ガイダンス内容の復習	4
第2回	フランス社会と日本社会の国民性の比較 概論	(予習) 日本にあるフランス由来のものを調べる (復習) フランスと日本の違いと共通点を再確認する	4
第3回	●フランス語の基礎① 挨拶 ●フランスと日本の比較 文化・習慣全般	(予習) フランス文化の世界的評価を調べる (復習) フランス文化・習慣と挨拶について復習する	4
第4回	●フランス語の基礎①-2 アルファベ ●フランスと日本の比較 政治・教育	(予習) 日本とフランスの現在の政治形態を確認する (復習) アルファベについて再確認する	4
第5回	●フランス語の基礎①-3 アルファベと発音 ●フランスと日本の比較 歴史	(予習) 日本とフランスの歴史について調べる (復習) フランス語の発音について再確認する	4
第6回	●フランス語の基礎①-4 挨拶をフランス語で書く ●フランスと日本の交流の歴史	(予習) フランスと日本の交流の歴史について調べる (復習) フランス語の挨拶を書く練習	4
第7回	フランス語の基礎①-5 フランス語で書き、話す (挨拶)	(予習) ここまで学んだフランス語の基礎を総復習 (復習) フランス語の挨拶を書き、話す練習	4
第8回	●フランス語の基礎②-1 文の基本的構成 ●フランスと日本の比較 地理	(予習) フランスの地理的情報について調べる (復習) フランス語の文の構成を再確認する	4
第9回	●フランス語の基礎②-2 動詞 ●フランスと日本の比較 産業・スポーツ	(予習) フランスの中心産業を調べる (復習) フランス語の動詞について再確認する	4
第10回	●フランス語の基礎②-3 名詞 ●フランスと日本の比較 抱えている問題	(予習) フランスの抱えている問題について調べる (復習) フランス語の名詞について再確認する	4
第11回	●フランス語の基礎②-4 冠詞 ●フランスと日本の比較 芸術	(予習) フランスの芸術について調べる (復習) フランス語の冠詞について再確認する	4
第12回	●フランス語の基礎②-5 フランス語で文を書く ●フランスの音楽文化	(予習) フランス語の品詞について、総復習 (復習) フランス語で文を書く練習	4
第13回	フランスの映像文化 概説	(予習) フランスの映像文化について調べる (復習) フランス語の挨拶について総復習	4
第14回	フランスの映像文化 フランス語を聞く/まとめ	(予習) フランス語の発音について総復習 (復習) 授業で学んだフランスの映像文化について復習	4
<b>教科書・参考書等</b>			
教科書は使用せず、配布するプリントに従って授業を進める。参考書は適宜紹介する。			
<b>成績評価方法・基準</b>			
コメントカード (毎回授業終了後に感想や疑問等を書き、提出する) = 30% フランス文化レポート (中間・期末と2回実施。講義内容の中からテーマを自由に選び、論じる) = 30% フランス語テスト (数回実施。基礎的な知識の定着をはかる) = 40%			

22	<b>ドイツの文化と言葉</b> FGE-CCS-270		選択 2単位 1年後期
	Culture and Language of Germany		
T・A 学科1年全組 松崎 裕人 E・C・K 学科1年全組 押領司史生			
<b>授業の達成目標</b>			<b>授業形態</b>
世界の多様な社会・言語についての基礎的な知識を身につけ、異文化に対する関心を深める。			○ 単独 (1人が全回担当)
			複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)
			オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)
			クラス分け (クラス分けで担当する)
<b>授業の概要</b>			<b>該当科目</b>
ドイツの歴史・文化・社会について、日本との比較を通して理解を深める。同時に初歩的なドイツ語文法、会話を学び、ドイツという国についての理解をさらに深める。			教職科目 (工業)
			教職科目 (情報)
			地域志向科目
<b>実務経験を活かした教育について</b>			実務経験のある教員担当
			アクティブラーニング
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>			
	<b>学習内容 (授業方法)</b>	<b>学習課題 (予習・復習)</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	ガイダンス	(予習) シラバスの通読 (復習) ガイダンス内容の復習	4
第2回	ドイツと日本の国民性比較 概論	(予習) 日本にあるドイツ由来のものを調べる (復習) ドイツと日本の違いと共通点を再確認する	4
第3回	●ドイツ語の基礎① 挨拶 ●ドイツと日本の比較 文化・習慣全般	(予習) ドイツ文化の世界的評価を調べる (復習) ドイツ文化・習慣と挨拶について復習する	4
第4回	●ドイツ語の基礎①-2 アルファベット ●ドイツと日本の比較 政治・教育	(予習) 日本とドイツの現在の政治形態を確認する (復習) アルファベットについて再確認する	4
第5回	●ドイツ語の基礎①-3 アルファベットと発音 ●ドイツと日本の比較 歴史	(予習) 日本とドイツの歴史について調べる (復習) ドイツ語の発音について再確認する	4
第6回	●ドイツ語の基礎①-4 挨拶をドイツ語で書く ●ドイツと日本の交流の歴史	(予習) ドイツと日本の交流の歴史について調べる (復習) ドイツ語の挨拶を書く練習	4
第7回	ドイツ語の基礎①-5 ドイツ語で書き、話す (挨拶)	(予習) ここまで学んだドイツ語の基礎を総復習 (復習) ドイツ語の挨拶を書き、話す練習	4
第8回	●ドイツ語の基礎②-1 文の基本的構成 ●ドイツと日本の比較 地理	(予習) ドイツの地理的情報について調べる (復習) ドイツ語の文の構成を再確認する	4
第9回	●ドイツ語の基礎②-2 動詞 ●ドイツと日本の比較 産業・スポーツ	(予習) ドイツの中心産業を調べる (復習) ドイツ語の動詞について再確認する	4
第10回	●ドイツ語の基礎②-3 名詞 ●ドイツと日本の比較 抱えている問題	(予習) ドイツの抱えている問題について調べる (復習) ドイツ語の名詞について再確認する	4
第11回	●ドイツ語の基礎②-4 冠詞 ●ドイツと日本の比較 芸術	(予習) ドイツの芸術について調べる (復習) ドイツ語の冠詞について再確認する	4
第12回	●ドイツ語の基礎②-5 ドイツ語で文を書く ●ドイツの音楽文化	(予習) ドイツ語の品詞について、総復習 (復習) ドイツ語で文を書く練習	4
第13回	ドイツの映像文化 概説	(予習) ドイツの映像文化について調べる (復習) ドイツ語の挨拶について総復習	4
第14回	ドイツの映像文化 ドイツ語を聞く まとめ	(予習) ドイツ語の発音について総復習 (復習) 授業で学んだドイツの映像文化について復習	4
<b>教科書・参考書等</b>			
未定			
<b>成績評価方法・基準</b>			
試験と課題提出に基づく総合評価とする。100点満点中60点以上を合格とする。			

23	<b>韓国の文化と言葉</b> FGE-CCS-280	選択 2単位 1年後期	
	Culture and Language of South Korea		
全学科1年全組 非常勤講師 黄 孝善			
<b>授業の達成目標</b>		<b>授業形態</b>	
世界の多様な社会・言語についての基礎的な知識を身につけ、異文化に対する関心を深める。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)	
		オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>		<b>該当科目</b>	
韓国の歴史・文化・社会について、日本との比較を通して理解を深める。同時に初歩的な韓国語文法、会話を学び、韓国という国についての理解をさらに深める。		教職科目 (工業)	
		教職科目 (情報)	
		地域志向科目	
<b>実務経験を活かした教育について</b>		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>			
	<b>学習内容 (授業方法)</b>	<b>学習課題 (予習・復習)</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	ガイダンス	(予習) シラバスの通読 (復習) ガイダンス内容の復習	4
第2回	韓国文化と韓国語 概論	(予習) 日本にある韓国由来のものを調べる (復習) 韓国(語)と日本(語)の違いと共通点を再確認する	4
第3回	●韓国語の基礎① 挨拶 ●韓国と日本の比較 文化・習慣全般	(予習) 韓国文化の世界的評価を調べる (復習) 韓国文化・習慣と挨拶について復習する	4
第4回	●韓国語の基礎①-2 文字 ●韓国と日本の比較 政治	(予習) 日本と韓国の現在の政治形態を確認する (復習) 韓国語の文字について再確認する	4
第5回	●韓国語の基礎①-3 文字と発音 ●韓国と日本の比較 歴史	(予習) 日本と韓国の歴史について調べる (復習) 韓国語の文字と発音について再確認する	4
第6回	●韓国語の基礎①-4 文字と発音 ●韓国と日本の交流の歴史	(予習) 韓国と日本の交流の歴史について調べる (復習) 韓国語の文字と発音について再確認する	4
第7回	韓国語の基礎①-5 韓国語で書き、話す(挨拶)	(予習) ここまで学んだ韓国語の基礎を総復習 (復習) 韓国語の挨拶を書き、話す練習	4
第8回	●韓国語の基礎②-1 文の基本的構成 ●韓国と日本の比較 地理	(予習) 韓国の地理的情報について調べる (復習) 韓国語の文の構成を再確認する	4
第9回	●韓国語の基礎②-2 子音 ●韓国と日本の比較 食	(予習) 韓国の食について調べる (復習) 韓国語の子音について再確認する	4
第10回	●韓国語の基礎②-3 母音 ●韓国と日本の比較 住居	(予習) 韓国の住居について調べる (復習) 韓国語の母音について再確認する	4
第11回	●韓国語の基礎②-4 パッチム ●韓国と日本の比較 教育	(予習) 韓国の教育制度について調べる (復習) パッチムについて再確認する	4
第12回	●韓国語の基礎②-5 発音法則 ●韓国の音楽文化	(予習) 韓国語の発音について、総復習 (復習) 韓国語の発音法則について再確認する	4
第13回	●韓国語の基礎②-6 数え方(漢数字) ●韓国の映像文化 概説	(予習) 韓国の映像文化について調べる (復習) 韓国語の数え方について総復習	4
第14回	●韓国語の基礎②-7 数え方(固有数字) ●韓国の映像文化 韓国語を聞く	(予習) 韓国語の発音について総復習 (復習) 授業で学んだ韓国の映像文化について復習	4
<b>教科書・参考書等</b>			
教科書なし。授業の時、プリント資料配布			
<b>成績評価方法・基準</b>			
レポート提出による評価			

24	<b>中国の文化と言葉</b> FGE-CCS-290	選択 2単位 1年後期	
	Culture and Language of China		
全学科1年全組 非常勤講師 佐藤祐李愛			
<b>授業の達成目標</b>		<b>授業形態</b>	
世界の多様な社会・言語についての基礎的な知識を身につけ、異文化に対する関心を深める。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)	
		オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>		<b>該当科目</b>	
中国の歴史・文化・社会について、日本との比較を通して理解を深める。同時に初歩的な中国語文法、会話を学び中国という国についての理解をさらに深める。		教職科目 (工業)	
		教職科目 (情報)	
		地域志向科目	
<b>実務経験を活かした教育について</b>		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>			
	<b>学習内容 (授業方法)</b>	<b>学習課題 (予習・復習)</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	ガイダンス	(予習) シラバスの通読 (復習) ガイダンス内容の復習	4
第2回	中国社会と日本社会の国民性の比較 概論	(予習) 日本にある中国由来のものを調べる (復習) 中国と日本の違いと共通点を再確認する	4
第3回	●中国語の基礎① 挨拶 ●中国と日本の比較 文化・習慣全般	(予習) 中国文化の世界的評価を調べる (復習) 中国文化・習慣と挨拶について復習する	4
第4回	●中国語の基礎①-2 ピンイン ●中国と日本の比較 政治・教育	(予習) 日本と中国の現在の政治形態を確認する (復習) ピンインについて再確認する	4
第5回	●中国語の基礎①-3 単母音・声調 ●中国と日本の比較 歴史	(予習) 日本と中国の歴史について調べる (復習) 中国語の発音について再確認する	4
第6回	●中国語の基礎①-4 挨拶を中国語で書く ●中国と日本の交流の歴史	(予習) 中国と日本の交流の歴史について調べる (復習) 中国語の挨拶を書く練習	4
第7回	中国語の基礎①-5 中国語で書き、話す (挨拶)	(予習) ここまで学んだ中国語の基礎を総復習 (復習) 中国語の挨拶を書き、話す練習	4
第8回	●中国語の基礎②-1 文の基本的構成 ●中国と日本の比較 地理	(予習) 中国の地理的情報について調べる (復習) 中国語の文の構成を再確認する	4
第9回	●中国語の基礎②-2 動詞 ●中国と日本の比較 産業・スポーツ	(予習) 中国の中心産業を調べる (復習) 中国語の動詞について再確認する	4
第10回	●中国語の基礎②-3 名詞 ●中国と日本の比較 抱えている問題	(予習) 中国の抱えている問題について調べる (復習) 中国語の名詞について再確認する	4
第11回	●中国語の基礎②-4 その他の品詞 ●中国と日本の比較 芸術	(予習) 中国の芸術について調べる (復習) 中国語の品詞について再確認する	4
第12回	●中国語の基礎②-5 中国語で文を書く ●中国の音楽文化	(予習) 中国語の品詞について、総復習 (復習) 中国語で文を書く練習	4
第13回	中国の映像文化 概説	(予習) 中国の映像文化について調べる (復習) 中国語の挨拶について総復習	4
第14回	中国の映像文化 中国語を聞く	(予習) 中国語の発音について総復習 (復習) 授業で学んだ中国の映像文化について復習	4
<b>教科書・参考書等</b>			
教科書「一年生のコミュニケーション中国語」 劉 穎 著 白水社出版			
<b>成績評価方法・基準</b>			
すべての練習問題の記入 (平常 10 点) 及び期末試験 (90 点) を総合して判断する。課題については、授業時に全体に対しフィードバックを行う。			

25	<b>スタディスキル I</b> FGE-LE-110	必修 1単位 1年前期	
	Study skills I		
(担当学科・組未定) 准 教 授 高橋秀太郎 講 師 河内 聡子 非常勤講師 加藤 順一			
<b>授業の達成目標</b>		<b>授業形態</b>	
大学在学中、並びに社会人となってから必要となるスタディスキル（学修能力）、特に日本語能力、生活管理能力の基礎を身につけることを達成目標とする。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input checked="" type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>		<b>該当科目</b>	
工大で学び、社会に出るための準備として「日本語力」、「大学生生活管理能力」を身に付ける。そのために、以下の2つ のことを学び、実践する。 I 「正しく分かりやすい日本語表現」をするために必要な「文章添削・文章構成・敬語」の基礎を学ぶ。 II 大学生生活を記録・管理する。		<input type="checkbox"/> 教職科目（工業） <input type="checkbox"/> 教職科目（情報） <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
<b>実務経験を活かした教育について</b>			
<b>授業計画（各回の学習内容等）</b>			
	<b>学習内容（授業方法）</b>	<b>学習課題（予習・復習）</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	●ガイダンス ●ノートテイキングの基本を学ぶ ●「大学生生活管理能力を身に付ける」説明（1年間実践）	(予習) シラバス通読する。 (復習) 大学生生活管理方法の再確認・実践	1
第2回	「添削力を身につける」①文章添削ポイント説明／「話し言葉」／漢字の添削練習 ●確認テスト	(予習) テキスト課題 (復習) 文章添削ポイントの再確認	1
第3回	「添削力を身につける」②「助詞」「文」の添削練習 ●確認テスト	(予習) テキスト課題 (復習) プリントの再確認	1
第4回	「添削力を身につける」③「文」の添削練習 ●4月分集計と自己分析・目標設定 ●確認テスト	(予習) テキスト課題 (復習) 集計と自己分析（「CAMPUS LIFE」）	1
第5回	「添削力を身につける」④「文・文章」の添削練習 ●「提出課題文」の説明と作成 ●第1回小テスト	(予習) 小テスト勉強 (復習) 「提出課題文」作成	1
第6回	「分析・考察力を身につける」①「レポートの書き方」「表・グラフ作成」の基本を学ぶ ●確認テスト	(予習) テキスト課題 (復習) 「レポートの書き方」「表・グラフ作成の基本」再確認	1
第7回	「分析・考察力を身につける」②分析練習／ICTを利用した情報収集の基本と注意点 ●確認テスト	(予習) テキスト課題 (復習) 「ICTを利用した情報収集の基本と注意点」の再確認	1
第8回	「分析・考察力を身につける」③分析・考察練習 ●5月分の集計と自己分析 ●確認テスト	(予習) テキスト課題 (復習) 集計と自己分析（「CAMPUS LIFE」）	1
第9回	「分析・考察力を身につける」④考察練習（5W2H） ●第2回小テスト	(予習) 小テスト勉強 (復習) 「考察練習」内容の再確認	1
第10回	「分析・考察力を身につける」⑤「分析・考察テスト」	(予習) 「分析・考察テスト」勉強 (復習) 「分析・考察テスト」内容の再確認	1
第11回	「分析・考察力を身につける」⑥総復習／「敬語力を身につける」①基本の再確認 ●6月分の集計と自己分析	(予習) テキスト課題 (復習) 集計と自己分析（「CAMPUS LIFE」）	1
第12回	「敬語力を身につける」②応用・説明練習／「構成力を身につける」①「自己PR文」説明と下書き ●確認テスト	(予習) テキスト課題 (復習) 敬語の基本・応用の再確認	1
第13回	「構成力を身につける」②「自己PR文」作成 ●第3回小テスト	(予習) 小テスト勉強 (復習) 「自己PR文」作成	1
第14回	●4～7月の集計と自己分析（「CAMPUS LIFE」）・目標設定 ●まとめ	(予習) 集計と自己分析（「CAMPUS LIFE」） (復習) 前期の講義内容の再確認	1
<b>教科書・参考書等</b>			
『大学生のための日本語表現実践ノート 改訂版』風間書房 「CAMPUS LIFE」			
<b>成績評価方法・基準</b>			
提出課題2つ（20点×2）と「テスト」（30点）、小テスト3回（合計30点）により評価する。 課題については、返却時に全体に対しフィードバックを行う。			

26	<b>スタディスキルⅡ</b> FGE-LE-211	必修 1単位 1年後期	
Study skills Ⅱ			
(担当学科・組未定) 准 教 授 大木 葉子 准 教 授 高橋秀太郎 非常勤講師 加藤 順一			
<b>授業の達成目標</b> 大学在学中、並びに社会人となってから必要となるスタディスキル (学修能力)、特に日本語能力、生活管理能力の基礎を身につけること、身に付けた力を実際に使えるようになることを達成目標とする。	<b>授業形態</b> <input type="checkbox"/> 単独 <small>(1人が全回担当)</small> <input type="checkbox"/> 複数 <small>(1回の授業を2人以上が一纏に担当)</small> <input type="checkbox"/> オムニバス <small>(各回の担当教員が異なる場合)</small> <input checked="" type="checkbox"/> クラス分け <small>(クラス分けで担当する)</small>		
<b>授業の概要</b> 本講義では、「日本語力」と「大学生生活管理能力」をさらに磨く。そのために、以下の2つのことを学び、実践する。 I 新聞記事を材料に、語彙力・読解力・要旨作成力を高める。 II 大学生生活を記録・管理し、それをもとに「自己紹介書」を作成する。	<b>該当科目</b> <input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (情報) <input type="checkbox"/> 地域志向科目		
<b>実務経験を活かした教育について</b>	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング		
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>			
	<b>学習内容 (授業方法)</b>	<b>学習課題 (予習・復習)</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	●ガイダンス ●「要旨作成力を身につける」①説明・練習 ●小テスト練習	(予習) シラバスの確認 (復習) ガイダンス内容の再確認	1
第2回	●第1回小テスト 「要旨作成力を身につける」② テーマ「災害」	(予習) 第1回小テストの勉強 (復習) 自身の作成した要旨 (「災害」) の再確認	1
第3回	●第2回小テスト 「要旨作成力を身につける」③ テーマ「医療」	(予習) 第2回小テストの勉強 (復習) 自身の作成した要旨 (「医療」) の再確認	1
第4回	●第3回小テスト 「要旨作成力を身につける」④ テーマ「国際問題」	(予習) 第3回小テストの勉強 (復習) 自身の作成した要旨 (「国際問題」) の再確認	1
第5回	●第4回小テスト 「要旨作成力を身につける」⑤ テーマ「環境問題」	(予習) 第4回小テストの勉強 (復習) 自身の作成した要旨 (「環境問題」) の再確認	1
第6回	「中間テスト」	(予習) 「中間テスト」の勉強 (復習) 「中間テスト」内容の再確認	1
第7回	●プレゼン資料作成練習 ●8～10月分の集計と分析	(予習) 「CAMPUS LIFE」確認 (復習) プレゼン資料作成方法の再確認	1
第8回	●第5回小テスト 「要旨作成力を身につける」⑥ テーマ「インターネット」	(予習) 第5回小テストの勉強 (復習) 自身の作成した要旨 (「インターネット」) の再確認	1
第9回	●第6回小テスト 「要旨作成力を身につける」⑦ テーマ「就活」	(予習) 第6回小テストの勉強 (復習) 自身の作成した要旨 (「就活」) の再確認	1
第10回	●第7回小テスト 「要旨作成力を身につける」⑧ テーマ「科学技術」	(予習) 第7回小テストの勉強 (復習) 自身の作成した要旨 (「科学技術」) の再確認	1
第11回	●第8回小テスト 「要旨作成力を身につける」⑨ テーマ「ジェンダー」	(予習) 第8回小テストの勉強 (復習) 自身の作成した要旨 (「ジェンダー」) の再確認	1
第12回	「期末テスト」	(予習) 「期末テスト」勉強 (復習) 「期末テスト」の内容の再確認	1
第13回	「自己紹介書を作成する」説明・作成	(予習) 集計と自己分析 (「CAMPUS LIFE」) (復習) 返却された「期末テスト」の復習	1
第14回	●8～1月の集計と自己分析 (「CAMPUS LIFE」)・目標設定 ●まとめ	(予習) 集計と自己分析 (「CAMPUS LIFE」) (復習) 後期の講義内容の再確認	1
<b>教科書・参考書等</b>			
新聞ダイジェスト 2021 9月増刊号『最新 時事用語&問題』(新聞ダイジェスト社) 「CAMPUS LIFE」			
<b>成績評価方法・基準</b>			
小テスト (4点×8回=32点)、「中間テスト」「期末テスト」(各25点 計50点)、「ノート」提出 (2回×4点=8点)、「自己紹介書」(10点)の合計点で評価する。課題等については、授業時に、全体に対しフィードバックを行う。			

27	<b>プレゼンテーション</b> EAGE-LE-212	選択 1単位 1年後期	
	Presentation		
全学科 1 年全組 非常勤講師 伊藤 光弘			
<b>授業の達成目標</b>		<b>授業形態</b>	
[1] コミュニケーション、プレゼンテーションに必要な思考能力を実践的に培う。 [2] 自分の持つコミュニケーション能力を高める。 [3] 今までより以上にプレゼンテーション能力を高める。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>		<b>該当科目</b>	
人間のコミュニケーション機能は本来自然に備わっているはずなのに、対人関係においてコミュニケーションを苦手とする人間は学生にも社会人にも非常に多い。本講義では多くの現代日本人が抱える、コミュニケーションへの苦手意識克服に理論的かつ適切な解を与えつつも、思考訓練と表現のツールである「図解」を用いて、将来ばかりか人生に必要とされるコミュニケーション、プレゼンテーション能力をグループワークも取り入れながら訓練、開発していく。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (情報) <input type="checkbox"/> 地域志向科目	
<b>実務経験を活かした教育について</b>		<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当	
電通東北で企業を相手にしたプレゼンを行ってきた経験を指導に活かす。		<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>			
	<b>学習内容 (授業方法)</b>	<b>学習課題 (予習・復習)</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	オリエンテーション「なぜ苦手なのか」(講義 15 回の全体概要解説、受講生の現状自己認識)	(予習) シラバス通読の上、準備学習を行う。 (復習) オリエンテーション内容の復習をする。	1
第2回	自分本位に図解しよう (図解コミュニケーション理論概要と実践)	(予習) 講義内で触れた図解秒法に従って次週までに図解を描く。 (復習) テキストを熟読する。	1
第3回	自分を誰かに説明してみよう (図解コミュニケーション実技、理論解説)	(予習) 描いてきた図解をブラッシュアップする。 (復習) アドバイス&メッセージシートを良く読む。	1
第4回	自分の歴史を発掘しよう (図解による自己分析、理論解説)	(予習) 自己紹介の図解を次週までに作ってくる。 (復習) テキストの反復	1
第5回	自分プレゼンテーション(図解プレゼンテーション実技、相互評価)	(予習) 任意の社会課題の図解を作成する。 (復習) アドバイス&メッセージシートをよく読んでくる	1
第6回	社会の仕組みを理解しよう (課題図解)	(予習) 解決策を考案し図解してくる。 (復習) メッセージシートの内容をよく読んで、問題点を解決する。	1
第7回	社会の仕組みを図解しよう (図解修正および、理論解説)	(予習) 社会課題に対する解決策を短い時間でプレゼンする準備。 (復習) 事前準備に抜かりがないか確認しておく	1
第8回	社会の仕組みをいじってみよう (自分の企画を形にする)	(予習) 社会課題に対する解決策を短い時間でプレゼンする準備。 (復習) 事前準備に抜かりがないか確認しておく。	1
第9回	社会の仕組みを変えてみよう (課題図解および、発表)	(予習) 社会課題に対する解決策を短い時間でプレゼンする準備 (復習) 事前準備に抜かりがないか確認しておく。	1
第10回	社会の仕組みを見せ合おう (グループプレゼンテーション、相互評価)	(予習) チームの役割分担を決め、連絡する。 (復習) チームプレゼン課題をよく把握 しておく。	1
第11回	チームで企画を作ってみよう (課題発表、チーム構築、チームワーク解説)	(予習) 具体的なチームワークを次の講義までに数回実施する。 (復習) 問題点の洗い出し。	1
第12回	チームで企画を練りあげてみよう (チームディスカッション、および発表実技)	(予習) 具体的なチームワークを次の講義までに数回実施する。 (復習) 問題点の洗い出し。	1
第13回	チームの企画を検証してみよう (チームプレゼンテーション事前準備)	(予習) 具体的なチームワークを次の講義までに数回実施する。 (復習) 問題点の洗い出し。	1
第14回	チームの企画を表現しよう (チームプレゼンテーション大会) / 講義総括、まとめ	(予習) 表現する対象者を事前に研究しておく。 (復習) 対象者からの講評で事前の対策を自己評価する。	1
<b>教科書・参考書等</b>			
特に指定はないが、講義の進行上また、受講生の理解度、進度により必要と判断できる資料、書籍などは随時講義内にて紹介する。(購入の有無、参照するしなは受講生の任意による。必須とはしない)			
<b>成績評価方法・基準</b>			
授業終了時に提出するアンケート (50%)、プレゼンテーション大会の審査結果 (20%) 試験又はレポート (30%) の合計による。課題レポートについては、授業時に、全体に対しフィードバックする。			

28	<b>ビジネスマナー</b> EAGE-LE-613	選択 1単位 3年後期	
	Business Manners		
全学科3年全組 非常勤講師 浅野 純子			
<b>授業の達成目標</b>		<b>授業形態</b>	
人間力を磨き、社会で活躍するための基礎を学習します。社会人として活躍する上で重要な基本マナーやコミュニケーション力、考え方を身につけます。ビジネスマナーと並行し、将来を決める就職活動の必勝法も学びます。自分の能力を活かし、将来安定した人生を送るために必要な基礎知識を実践的な授業で習得します。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		○ 複数 (1回の授業を2人以上が一纏めに担当)	
		○ オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		○ クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>		<b>該当科目</b>	
自分自身を見つめ、社会性をもつ人間としての基本を学ぶ。また、仕事への取り組み方やより良い人間関係など、社会人として生きる上で大切な事を学習する。		○ 教職科目 (工業)	
		○ 教職科目 (情報)	
		○ 地域志向科目	
<b>実務経験を活かした教育について</b>		○ 実務経験のある教員担当	
担当講師は、企業での秘書業務や各種企業・団体での講演と研修講師を数多く歴任した長年にわたる指導実績を基に講義に取り入れている。		○ アクティブラーニング	
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>			
	<b>学習内容 (授業方法)</b>	<b>学習課題 (予習・復習)</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	能力を出すコツ・健康管理・正しい姿勢・重心・立ち方 お辞儀・挨拶・立ち居振る舞い・歩き方・名刺交換	(予習) 挨拶・立ち居振る舞いに大切なポイントを考え実践 (復習) お辞儀・挨拶・歩き方など学んだことを体得する	1
第2回	笑顔・目力・滑舌・成功するための7つの習慣 身だしなみ・リクルートスーツ・カラーと洋服のマナー	(予習) 自分のイメージアップに必要な事と持ち物リスト作成 (復習) 目力・笑顔・滑舌・成功のための7つの習慣を体得する	1
第3回	自分に似合う色の見つけ方・言葉遣いの習得による効果 敬語・職場用語・ビジネス会話・言葉遣いテスト	(予習) 自分の話し方や言葉遣いのクセを書き出す (復習) 敬語・職場用語・接遇用語を繰り返し音読し習得する	1
第4回	間違いやすい言葉遣い・言葉の使い方・クッション言葉 接遇用語とご案内・接遇での正しい敬語表現	(予習) 敬語の資料を繰り返し音読をする (復習) 正しい言葉遣い・クッション言葉・接遇用語を音読	1
第5回	電話の特性・電話対応の基本・求人応募時の電話対応 電話の基本対応とケース別対応・ロールプレイング	(予習) 笑顔で話す習慣・敬語と正しい言葉遣いの習得 (復習) 電話対応の基本・ケース別対応の資料を音読	1
第6回	就職活動必勝法・面接合格ポイント・基本の挨拶の習得 シーン別挨拶言葉の習得・面接質問例の答え方	(予習) 自分の強み・自分が好きな事・関心がある事の分析 (復習) 笑顔でハキハキと自分の考えを分かりやすく話す練習	1
第7回	就職率が高い秘訣・コミュニケーション成功のポイント 面接の流れ・面接の実践練習・履歴書の準備	(予習) 面接質問に答えられるよう自己分析をし準備 (復習) 面接での答え方を練習し自信をつける	1
第8回	東北工業大学の履歴書・履歴書の書き方 書類選考合格の秘訣・面接実践練習・合格への道	(予習) 履歴書を作成できるように準備をする (復習) 書類選考で通る履歴書を完成させる	1
第9回	想定外の質問への対応・価値観・会社選びの優先順位 自己ライフサイクルシート・ブラック企業の見極め	(予習) 一番大切だと思う事・仕事選びの優先順位を書く (復習) 自分の人生の計画・価値観・仕事選びをまとめる	1
第10回	ビジネスマナー問題・ビジネスマナー問題の解答・解説 ビジネスマナーポイント・試験の目的と説明	(予習) 自分が習慣にしたいマナー・改善したいマナーを書く (復習) ビジネスマナーのポイントをしっかりと覚える	1
第11回	人間力・社会人の心構えとプロ意識・職場のマナー 報告連絡相談の仕方・会社の役職と組織・役割	(予習) 普段から連絡や報告を習慣にする (復習) 社会人としての心構えやマナーを習慣にし身につける	1
第12回	選択と決断力・クレーム対応と実例・ビジネス文書 添え状とお礼状・メールの書き方・敬称・押印・呼称	(予習) 決断と実行を早くする実践を行う (復習) 添え状とお礼状の下書きを書く	1
第13回	心のマネジメント・魅力的なパーソナリティ・席次 より良い人間関係を築くために・訪問・お茶の接遇	(予習) 人間関係を良くするために実践していることを書く (復習) 心のマネジメントと魅力的なパーソナリティの音読習慣	1
第14回	評価方法の説明・ビジネスでの査定・冠婚葬祭のマナー 食事のマナー・乾杯とお祝いの挨拶・万歳と締め作法	(予習) 冠婚葬祭や食事のマナーについて不明な点を書き出す (復習) 冠婚葬祭・食事のマナーなどについて習得をする	1
<b>教科書・参考書等</b>			
役立つビジネスマナー 浅野 純子			
<b>成績評価方法・基準</b>			
ビジネスマナーの試験問題 70%・面接実践 30%・試験の評価等については授業時に全体に対しフィードバックを行う。			

29	<b>英語 I A</b> FGE-LE-130		必修 1単位 1年前期	
	English I A			
E 1年P組 徳永 慎也 E 1年Q組 高橋 哲徳 E 1年R組 鈴木 淳		T 1年P組・Q組 星 かおり T 1年R組 三枝 和彦 A 1年Q組・R組 柴田 尚子 A 1年P組 漆原 幸子		C 1年X組 徳永 慎也 C 1年Y組 三枝 和彦 K 1年X組 鈴木 淳 K 1年Y組 高橋 哲徳
<b>授業の達成目標</b>			<b>授業形態</b>	
1. 品詞、文の種類、文型、時制などの基礎的な英文法を理解できる。 2. 基礎的英文法の理解に基づいて、speaking、listening、writing、readingの四分野において、日常的場面でのコミュニケーションを行うことができる。			<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input checked="" type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>			<b>該当科目</b>	
speaking、listening、writing、readingの四分野に関わる総合的英語学習を行うが、特に、英文法の基本的事項に関する理解に基づいて情報の送受信を行うための基礎を学ぶ。取り上げる文法項目は、品詞、文の種類、五文型、時制である。			<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (情報) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
<b>実務経験を活かした教育について</b>				
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>				
	<b>学習内容 (授業方法)</b>	<b>学習課題 (予習・復習)</b>		<b>時間(時)</b>
第1回	ガイダンス (授業内容、計画、教材、学習方法、成績評価法など)	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 教科書に目を通し、今後の学習内容、方法を確認する。		1
第2回	英文の基本構成と文の種類：解説	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 英文の基本構成と文の種類に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。		1
第3回	英文の基本構成と文の種類：演習問題	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。		1
第4回	品詞の種類と用法：解説	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 品詞に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。		1
第5回	品詞の種類と用法：演習問題	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。		1
第6回	文型 (第1-3文型)：解説	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 第1-3文型に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。		1
第7回	文型 (第1-3文型)：演習問題	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。		1
第8回	文型 (第4-5文型、その他の文型)：解説	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 第4-5文型等に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。		1
第9回	文型 (第4-5文型、その他の文型)：演習問題	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。		1
第10回	時制 (現在、過去、未来時制の諸用法)：解説	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 現在、過去、未来時制に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。		1
第11回	時制 (現在、過去、未来時制の諸用法)：演習問題	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。		1
第12回	時制 (進行形、完了形の諸用法)：解説	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 進行形、完了形に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。		1
第13回	時制 (進行形、完了形の諸用法)：演習問題	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。		1
第14回	前期学習内容のまとめと確認	(予習) これまでの学習内容を再確認する。 (復習) 前期の学習内容に関して不確実な部分を確認する。		1
<b>教科書・参考書等</b>				
教科書・参考書については授業開始時、もしくは適宜必要に応じて指示する。				
<b>成績評価方法・基準</b>				
成績は定期試験によって評価する。				

30	<b>英語 I B</b> FGE-LE-231			必修 1単位 1年後期			
	English I B						
E 1年P組 漆原 幸子		T 1年P組 星 かおり		A 1年P組 徳永 慎也		C 1年X組 徳永 慎也	
E 1年Q組 高橋 哲徳		T 1年Q組 高橋 哲徳		A 1年Q組・R組 柴田 尚子		C 1年Y組 ク ッ ク	
E 1年R組 鈴木 淳		T 1年R組 三枝 和彦				K 1年X組 鈴木 淳	
						K 1年Y組 高橋 哲徳	
<b>授業の達成目標</b>						<b>授業形態</b>	
1. 主語と動詞の一致、助動詞、前置詞、接続詞、比較などのより複雑な英文の理解に必要な文法項目を理解できる。 2. 上の文法項目の理解に基づいて、speaking、listening、writing、readingの四分野において、日常的場面でのコミュニケーションを行うことができる。						単独 (1人が全回担当)	
						複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)	
						オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
						○ クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>						<b>該当科目</b>	
speaking、listening、writing、readingの四分野に関わる総合的英語学習を行うが、特に、英文法の基本的事項に関する理解に基づいて、長文読解のための基礎を学ぶ。取り上げる文法項目は、主語と動詞の一致、助動詞、前置詞、接続詞、比較である。						教職科目 (工業)	
						教職科目 (情報)	
						地域志向科目	
						実務経験のある教員担当	
<b>実務経験を活かした教育について</b>						アクティブラーニング	
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>							
	<b>学習内容 (授業方法)</b>			<b>学習課題 (予習・復習)</b>			<b>時間(時)</b>
第1回	ガイダンス (授業内容、計画、教材、学習方法、成績評価法など)			(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 教科書に目を通し、今後の学習内容、方法を確認する。			1
第2回	英文の形式と特徴：解説			(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 英文の形式と特徴に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。			1
第3回	英文の形式と特徴：演習問題			(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。			1
第4回	主語と動詞の一致：解説			(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 主語と動詞の一致に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。			1
第5回	主語と動詞の一致：演習問題			(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。			1
第6回	前置詞の諸用法：解説			(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 前置詞の諸用法に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。			1
第7回	前置詞の諸用法：演習問題			(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。			1
第8回	接続詞の諸用法：解説			(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 接続詞の諸用法に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。			1
第9回	接続詞の諸用法：演習問題			(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。			1
第10回	比較の表現：解説			(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 比較の表現に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。			1
第11回	比較の表現：演習問題			(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。			1
第12回	助動詞の諸用法：解説			(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 助動詞の諸用法に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。			1
第13回	助動詞の諸用法：演習問題			(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。			1
第14回	後期学習内容のまとめと確認			(予習) これまでの学習内容を再確認する。 (復習) 後期の学習内容に関して不確実な部分を確認する。			1
<b>教科書・参考書等</b>							
教科書・参考書については授業開始時、もしくは適宜必要に応じて指示する。							
<b>成績評価方法・基準</b>							
成績は定期試験によって評価する。							

31	<b>英語ⅡA</b> FGE-LE-332				必修 1単位 2年前期				
	English II A								
E 2年P組 漆原 幸子		T 2年P組 星 かおり		A 2年P組 柴田 尚子		C 2年X組 柴田 尚子			
E 2年Q組 高橋 哲徳		T 2年Q組 高橋 哲徳		A 2年Q組 三上 由比		C 2年Y組 三上 由比			
E 2年R組 鈴木 淳		T 2年R組 鈴木 淳		A 2年R組 フック		K 2年X組 徳永 慎也			
						K 2年Y組 徳永 慎也			
<b>授業の達成目標</b>								<b>授業形態</b>	
1. 品詞、文型、時制、受動態、関係詞などの基礎的な英文法を理解できる。 2. 英語圏での日常生活、およびビジネスの現場で用いられる TOEIC レベルの英文メール、手紙、広告などの、基本的、実践的内容の英文を理解できる。								単独 (1人が全回担当)	
								複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)	
								オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
								○ クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>								<b>該当科目</b>	
speaking, listening, writing, reading の四分野に関わる総合的英語学習を行うが、特に、英文法の基本的事項に関する理解に基づき、TOEIC の適語補充問題レベルの英文に対応するための基礎を学ぶ。取り上げる文法項目は、品詞、文型、時制、受動態、関係詞である。								教職科目 (工業)	
								教職科目 (情報)	
								地域志向科目	
								実務経験のある教員担当	
<b>実務経験を活かした教育について</b>								アクティブラーニング	
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>									
	<b>学習内容 (授業方法)</b>				<b>学習課題 (予習・復習)</b>				<b>時間(時)</b>
第1回	ガイダンス (授業内容、計画、教材、学習方法、成績評価法など)				(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 教科書に目を通し、今後の学習内容、方法を確認する。				1
第2回	TOEIC の出題形式と特徴：解説				(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) TOEIC の出題形式と特徴に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。				1
第3回	TOEIC の出題形式と特徴：模擬試験演習				(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。				1
第4回	文型の理解と品詞の判別：解説				(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 文型と品詞判別に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。				1
第5回	文型の理解と品詞の判別：演習問題				(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。				1
第6回	可算名詞と不可算名詞：解説				(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 可算名詞と不可算名詞に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。				1
第7回	可算名詞と不可算名詞：演習問題				(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。				1
第8回	動詞の変化と時制：解説				(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 動詞の変化と時制に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。				1
第9回	動詞の変化と時制：演習問題				(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。				1
第10回	受動態の諸用法：解説				(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 受動態の諸用法に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。				1
第11回	受動態の諸用法：演習問題				(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。				1
第12回	関係詞の諸用法：解説				(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 関係詞の諸用法に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。				1
第13回	関係詞の諸用法：演習問題				(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。				1
第14回	前期学習内容のまとめと確認				(予習) これまでの学習内容を再確認する。 (復習) 前期の学習内容に関して不確実な部分を確認する。				1
<b>教科書・参考書等</b>									
教科書・参考書については授業開始時、もしくは適宜必要に応じて指示する。									
<b>成績評価方法・基準</b>									
成績は定期試験によって評価する。									

32	<b>英語ⅡB</b> FGE-LE-433			必修 1単位 2年後期			
	English II B						
E 2年P組 漆原 幸子		T 2年P組 星 かおり		A 2年P組 柴田 尚子		C 2年X組 柴田 尚子	
E 2年Q組 徳永 慎也		T 2年Q組 高橋 哲徳		A 2年Q組 三上 由比		C 2年Y組 フック	
E 2年R組 フック		T 2年R組 鈴木 淳		A 2年R組 鈴木 淳		K 2年X組 徳永 慎也	
						K 2年Y組 三上 由比	
<b>授業の達成目標</b>						<b>授業形態</b>	
1. 分詞、不定詞、動名詞、仮定法などにより高度な英文法に関する知識を持つ。 2. 英語圏での日常生活、およびビジネスの現場において用いられる TOEIC レベルの社内通知、表、アンケートなどを含む様々なフォームの英文を理解できる。						単独 (1人が全回担当)	
						複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)	
						オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
						○ クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>						<b>該当科目</b>	
speaking listening writing reading の四分野に関わる総合的英語学習を行うが、特に、英文法の基本的事項に関する理解に基づいて、TOEICレベルの長文に対応するための基礎を学ぶ。取り上げる文法項目は、分詞、不定詞、動名詞、仮定法である。						教職科目 (工業)	
						教職科目 (情報)	
						地域志向科目	
						実務経験のある教員担当	
<b>実務経験を活かした教育について</b>						アクティブラーニング	
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>							
	<b>学習内容 (授業方法)</b>			<b>学習課題 (予習・復習)</b>			<b>時間(時)</b>
第1回	ガイダンス (授業内容、計画、教材、学習方法、成績評価法など)			(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 教科書に目を通し、今後の学習内容、方法を確認する。			1
第2回	TOEIC の長文問題の形式と特徴：解説			(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) TOEIC の長文問題の形式と特徴に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。			1
第3回	TOEIC の長文問題の形式と特徴：模擬試験演習			(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。			1
第4回	現在分詞の諸用法：解説			(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 現在分詞の諸用法に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。			1
第5回	現在分詞の諸用法：演習問題			(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。			1
第6回	過去分詞の諸用法：解説			(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 過去分詞の諸用法に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。			1
第7回	過去分詞の諸用法：演習問題			(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。			1
第8回	to 不定詞の諸用法：解説			(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) to 不定詞の諸用法に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。			1
第9回	to 不定詞の諸用法：演習問題			(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。			1
第10回	動名詞の諸用法：解説			(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 動名詞の諸用法に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。			1
第11回	動名詞の諸用法：演習問題			(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。			1
第12回	仮定法の表現：解説			(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 仮定法に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。			1
第13回	仮定法の表現：演習問題			(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を再確認する。			1
第14回	後期学習内容のまとめと確認			(予習) これまでの学習内容を再確認する。 (復習) 後期の学習内容に関して不確実な部分を確認する。			1
<b>教科書・参考書等</b>							
教科書・参考書については授業開始時、もしくは適宜必要に応じて指示する。							
<b>成績評価方法・基準</b>							
成績は定期試験によって評価する。							

<b>33</b>	<b>英会話A</b> FGE-LE-140	選択 1単位 1年前期	
English Conversation A			
E・T・C1年全組 准教授 サイモン・フック A・K1年全組 非常勤講師 ディエゴ・ダードン			
<b>授業の達成目標</b>		<b>授業形態</b>	
The objective of this course is to provide students with a variety of opportunities to express themselves in English. Focus will be placed upon speaking & listening.		単独 (1人が全回担当)	
		複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)	
		オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		○ クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>		<b>該当科目</b>	
The course covers a variety of topics which will give students the opportunities to learn & share information about themes relevant to students' daily lives. In addition to the course textbook, the course is supplemented by a variety of interactive activities such as vocabulary & transcription exercises. These activities will help students to gain confidence in using the four skills of speaking, listening, reading & writing in English more spontaneously & creatively.		教職科目 (工業)	
		教職科目 (情報)	
		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
<b>実務経験を活かした教育について</b>		アクティブラーニング	
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>			
	<b>学習内容 (授業方法)</b>	<b>学習課題 (予習・復習)</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	Course introduction & orientation. Stage 1-1 of textbook.	Course guidance & conversation warm-up exercises・The importance of creating a collaborative environment.	1
第2回	Stage 1-2 of textbook. Vocabulary test. Learning conversation skills - general interaction.	Vocabulary test. Speaking and listening activities based on the topic	1
第3回	Stage 1-3 of textbook. Vocabulary test. Transcription activity.	Vocabulary test & listening activities based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Discussion of Transcription assignment.	1
第4回	Stage 1-4 of textbook. Vocabulary test. Learning conversation skills - keeping the conversation going.	Vocabulary test & listening activities based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Practice of taught conversation skills.	1
第5回	Stage 1-5 of textbook. Vocabulary test. Transcription activity.	Vocabulary test & listening activities based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Discussion of Transcription assignment.	1
第6回	Stage 2-1 of textbook. Vocabulary test. Learning conversation skills - asking questions.	Vocabulary test & listening activities based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Practice of taught conversation skills.	1
第7回	Stage 2-2 of textbook. Vocabulary test. Transcription activity.	Vocabulary test & listening activities based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Discussion of Transcription assignment.	1
第8回	Stage 2-3 of textbook. Vocabulary test. Learning conversation skills - giving feedback.	Vocabulary test & listening activities based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Practice of taught conversation skills.	1
第9回	Stage 2-4 of textbook. Transcription activity.	Vocabulary test & listening activities based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Discussion of Transcription assignment.	1
第10回	Stage 2-5 of textbook. Vocabulary test. Learning conversation skills - changing the topic.	Vocabulary test & listening activities based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Practice of taught conversation skills.	1
第11回	Stage 3-1 of textbook. Vocabulary test. Transcription activity.	Vocabulary test & listening activities based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Discussion of Transcription assignment.	1
第12回	Stage 3-2 of textbook. Vocabulary test. Learning conversation skills - gestures & other non-verbal communication.	Vocabulary test & listening activities based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Practice of taught conversation skills.	1
第13回	Stage 3-3 of textbook. Vocabulary test. Speaking test	Vocabulary test & listening activities based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Discussion of Transcription assignment.	1
第14回	End of semester review	End of semester review	1
<b>教科書・参考書等</b>			
開拓社 無敵リスニング〈中級〉エイドリアン・リース、サイモン・フック			
<b>成績評価方法・基準</b>			
Students will be evaluated through both continual assessment and an end of semester test.			

<b>34</b>	<b>英会話 B</b> FGE-LE-241	選択 1単位 1年後期	
English Conversation B			
T・C・K 1年全組 准教授 サイモン・クック E・A 1年全組 非常勤講師 ディエゴ・ダードン			
<b>授業の達成目標</b>		<b>授業形態</b>	
The objective of this course is to provide students with a variety of opportunities to express themselves in English. Focus will be placed upon speaking & listening.		単独 (1人が全回担当)	
		複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)	
		オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		○ クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>		<b>該当科目</b>	
In addition to the course textbook, the course is supplemented by a variety of interactive activities such as vocabulary & transcription exercises and the use of TED talks. These activities will help students to gain confidence in using the four skills of speaking, listening, reading & writing in English more spontaneously & creatively. Students will also learn presenting skills, vital for learning to express themselves & their ideas to a wider audience in English.		教職科目 (工業)	
		教職科目 (情報)	
		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
<b>実務経験を活かした教育について</b>		アクティブラーニング	
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>			
	<b>学習内容 (授業方法)</b>	<b>学習課題 (予習・復習)</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	Course introduction & orientation. Stage 4-1 of textbook.	Course guidance & conversation warm-up exercises・The importance of speaking English & creating a collaborative environment.	1
第2回	Stage 4-2 of textbook. Vocabulary test. Presentation skills #1 TED Talks #1	Vocabulary test & listening activity based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Begin thinking about presentation topics.	1
第3回	Stage 4-3 of textbook. Vocabulary test. Transcription activity. TED talks #2	Vocabulary test & listening activity based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Discussion of Transcription assignment.	1
第4回	Stage 4-4 of textbook. Vocabulary test. TED talks #3.	Vocabulary test & listening activity based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Reflection & discussion of viewed presentation.	1
第5回	Stage 4-5 of textbook. Vocabulary test. Transcription activity. Presentation skills #2.	Vocabulary test & listening activity based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Discussion of Transcription assignment. Presentation practice.	1
第6回	Stage 5-1 of textbook. Vocabulary test. TED talks #2. TED Talks #4	Vocabulary test & listening activity based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Reflection & discussion of viewed presentation.	1
第7回	Stage 5-2 of textbook. Vocabulary test. Transcription activity. TED Talks #5	Vocabulary test & listening activity based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Discussion of Transcription assignment.	1
第8回	Stage 5-3 of textbook. Vocabulary test. TED talks #6	Vocabulary test & listening activity based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Reflection & discussion of viewed presentation.	1
第9回	Stage 5-4 of textbook. Transcription activity. Presentation skills #3. TED Talks #7	Vocabulary test & listening activity based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Discussion of Transcription assignment. Presentation practice.	1
第10回	Stage 5-5 of textbook. Vocabulary test. TED talks #8	Vocabulary test & listening activity based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Reflection & discussion of viewed presentation.	1
第11回	Stage 6-1 of textbook. Vocabulary test. Transcription activity. Presentation skills #4.	Vocabulary test & listening activity based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Discussion of Transcription assignment. Presentation practice.	1
第12回	Stage 6-2 of textbook. Vocabulary test. TED talks #9.	Vocabulary test & listening activity based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Reflection & discussion of viewed presentation.	1
第13回	Vocabulary test. Speaking test. Final Presentations.	Vocabulary test & listening activity based on the topic・Collaborative dictogloss & group discussion activities. Discussion of Transcription assignment.	1
第14回	End of semester review	End of semester review	1
<b>教科書・参考書等</b>			
開拓社 無敵リスニング〈中級〉エイドリアン・リース、サイモン・クック			
<b>成績評価方法・基準</b>			
Students will be evaluated through both continual assessment and an end of semester tests.			

35	<b>資格英語A</b> FGE-LE-150	選択 1単位 2年前期	
	English for Specific Purposes A		
全学科2年全組 准教授 鈴木 淳			
<b>授業の達成目標</b>		<b>授業形態</b>	
1. 品詞、文の種類、文型、時制、主語と動詞の一致などの英文法の基礎的事項が理解できる。 2. 英語の音韻体系の基礎的事項が理解できる。 3. TOEIC テストへの基礎的対応力を有する。		<input type="radio"/> 単独 <small>(1人が全回担当)</small> <input type="checkbox"/> 複数 <small>(1回の授業を2人以上が一纏に担当)</small> <input type="checkbox"/> オムニバス <small>(各回の担当教員が異なる場合)</small> <input type="checkbox"/> クラス分け <small>(クラス分けで担当する)</small>	
<b>授業の概要</b>		<b>該当科目</b>	
TOEIC 対策用のテキストや参考書などを用いて、TOEIC テストへの基本的な知識と対応能力を身につける。取り上げる文法項目は品詞、文型、時制、準動詞、主語と動詞の一致などの基礎的事項や重要イディオムなどであり、400点を目標とした授業を行う。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (情報) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
<b>実務経験を活かした教育について</b>			
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>			
	<b>学習内容 (授業方法)</b>	<b>学習課題 (予習・復習)</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	ガイダンス (授業内容、計画、教材、学習方法、成績評価法など)	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 教科書に目を通し、今後の学習内容、方法を確認する。	1
第2回	TOEIC 対策演習 (品詞) 解説	(予習) 品詞のユニットについて、単語の意味、発音を確認する。 (復習) 品詞に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。演習問題について、単語の意味、発音を確認する。	1
第3回	TOEIC 対策演習 (品詞) 演習	(予習) 演習問題に関して、単語の意味、発音を確認する。 (復習) 品詞に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	1
第4回	TOEIC 対策演習 (時制) 解説	(予習) 時制のユニットについて、単語の意味、発音を確認する。 (復習) 時制に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	1
第5回	TOEIC 対策演習 (時制) 演習	(予習) 演習問題に関して、単語の意味、発音を確認する。 (復習) 時制に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	1
第6回	TOEIC 対策演習 (動詞の形) 解説	(予習) 動詞のユニットについて、単語の意味、発音を確認する。 (復習) 動詞に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	1
第7回	TOEIC 対策演習 (動詞の形) 演習	(予習) 演習問題に関して、単語の意味、発音を確認する。 (復習) 動詞に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	1
第8回	TOEIC 対策演習 (主語と動詞の一致) 解説	(予習) 主語と動詞の一致のユニットについて、単語の意味、発音を確認する。 (復習) 主語と動詞の一致に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	1
第9回	TOEIC 対策演習 (主語と動詞の一致) 演習	(予習) 演習問題に関して、単語の意味、発音を確認する。 (復習) 主語と動詞の一致に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	1
第10回	TOEIC 対策演習 (文型) 解説	(予習) 文型のユニットについて、単語の意味、発音を確認する。 (復習) 文型に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	1
第11回	TOEIC 対策演習 (文型) 演習	(予習) 演習問題に関して、単語の意味、発音を確認する。 (復習) 文型に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	1
第12回	TOEIC 対策演習 (前置詞) 解説	(予習) 前置詞のユニットについて、単語の意味、発音を確認する。 (復習) 前置詞に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	1
第13回	TOEIC 対策演習 (前置詞) 演習	(予習) 演習問題に関して、単語の意味、発音を確認する。 (復習) 前置詞に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	1
第14回	前期学習内容のまとめと確認	(予習) これまでの学習内容を再確認する。 (復習) 前期の学習内容に関して不確実な部分を確認する。	1
<b>教科書・参考書等</b>			
教科書・参考書については授業開始時、もしくは適宜必要に応じて指示する。			
<b>成績評価方法・基準</b>			
成績は定期試験によって評価する。ただし、受講者は授業期間内に行われる「TOEIC IP テスト」を必ず受験すること。未受験の場合には単位は認められない。			

36	<b>資格英語 B</b> FGE-LE-251	選択 1単位 2年後期	
	English for Specific Purposes B		
全学科 2年全組 准教授 鈴木 淳			
<b>授業の達成目標</b>		<b>授業形態</b>	
1. 受動態、準動詞、関係詞、仮定法などより複雑な構造の英文を理解できる。 2. TOEIC リーディング・セクションの長文問題への対応力を有する。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>		<b>該当科目</b>	
TOEIC 対策用のテキストや参考書などを用いた演習を通して、より複雑な構造の英文を理解する。取り扱う文法事項は、受動態や不定詞、動名詞、分詞、関係詞、仮定法などである。また、重要イディオムや語彙問題の演習を通して、よりスコアに結び付く実践的な力をつける。450～500点を目標とした授業内容である。		教職科目 (工業) 教職科目 (情報) 地域志向科目	
<b>実務経験を活かした教育について</b>		実務経験のある教員担当 アクティブラーニング	
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>			
	<b>学習内容 (授業方法)</b>	<b>学習課題 (予習・復習)</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	ガイダンス (授業内容、計画、教材、学習方法、成績評価法など)	(予習) 未知の英単語の意味、発音を調べる。また英文を音読する。 (復習) 教科書に目を通し、今後の学習内容、方法を確認する。	1
第2回	TOEIC 対策演習 (受動態) 解説・演習問題	(予習) 受動態のユニットについて、単語の意味、発音を確認する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	1
第3回	TOEIC 対策演習 (不定詞) 解説	(予習) 不定詞について、単語の意味、発音を確認する。 (復習) 不定詞に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	1
第4回	TOEIC 対策演習 (不定詞) 演習問題	(予習) 演習問題のユニットについて、単語の意味、発音を確認する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	1
第5回	TOEIC 対策演習 (動名詞) 解説	(予習) 動名詞について、単語の意味、発音を確認する。 (復習) 動名詞に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	1
第6回	TOEIC 対策演習 (動名詞) 演習	(予習) 演習問題のユニットについて、単語の意味、発音を確認する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	1
第7回	TOEIC 対策演習 (分詞) 解説	(予習) 分詞のユニットについて、単語の意味、発音を確認する。 (復習) 分詞に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	1
第8回	TOEIC 対策演習 (分詞) 演習問題	(予習) 演習問題について、単語の意味、発音を確認する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	1
第9回	TOEIC 対策演習 (関係詞) 解説	(予習) 関係詞について、単語の意味、発音を確認する。 (復習) 関係詞に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	1
第10回	TOEIC 対策演習 (関係詞) 演習問題	(予習) 演習問題について、単語の意味、発音を確認する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	1
第11回	TOEIC 対策演習 (比較) 解説	(予習) 比較のユニットについて、単語の意味、発音を確認する。 (復習) 比較に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	1
第12回	TOEIC 対策演習 (比較) 演習問題	(予習) 演習問題について、単語の意味、発音を確認する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	1
第13回	TOEIC 対策演習 (仮定法) 解説・演習問題	(予習) 仮定法のユニットについて、単語の意味、発音を確認する。 (復習) 演習問題に関してノート等を用いて不確実な部分を復習する。	1
第14回	後期学習内容の確認	(予習) 試験でできなかった問題を再度解き理解を深める。 (復習) 後期の学習内容に関して不確実な部分を確認する。	1
<b>教科書・参考書等</b>			
教科書・参考書については授業開始時、もしくは適宜必要に応じて指示する。			
<b>成績評価方法・基準</b>			
成績は定期試験によって評価する。ただし、受講者は授業期間内に行われる「TOEIC IP テスト」を必ず受験すること。未受験の場合には単位は認められない。			

<b>37</b>	<b>健康・運動科学実習 I</b>	FGE-MPH-110	選択 1単位 1年前期
Practice of Health, Exercise and Physical Sciences I			
E・T・C・K・A 1年全組		教 授 高野 淳司 准 教 授 本田 春彦 非常勤講師 松原 悟	非常勤講師 池田 晃一 非常勤講師 金野 麻衣
<b>授業の達成目標</b>		<b>授業形態</b>	
生涯にわたり継続的に運動を楽しむための資質や能力を身につけることを目的に複数種類のトレーニングやスポーツ種目を実践する。それぞれのトレーニングやスポーツ種目がもたらす効果を理解し、各人の目的に応じてトレーニングやスポーツを選択できる能力を養う。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		○ 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)	
		○ オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		○ クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>		<b>該当科目</b>	
対面授業とオンライン授業を併用して授業を行う。様々なトレーニングやスポーツ種目を個人あるいはグループ単位で取り組む。また、健康科学講義や生活習慣の自己診断等を通し、健康づくりのための基本的知識を習得する。		教職科目 (工業)	
		教職科目 (情報)	
		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
<b>実務経験を活かした教育について</b>		アクティブラーニング	
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>			
	<b>学習内容 (授業方法)</b>	<b>学習課題 (予習・復習)</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	ガイダンス (授業概要・成績評価の説明)	(予習) 選択する種目等についてシラバスで確認する (復習) 履修登録や実施場所等の授業全体のルールについて確認する	1
第2回	マルチスポーツ (ウォーミングアップ、ストレッチ)	(予習) ウォーミングアップやストレッチの具体例について調べておく (復習) 授業で説明された技術を確認し練習しておく	1
第3回	マルチスポーツ (サーキットトレーニング)	(予習) 「サーキットトレーニング」について調べておく (復習) 授業で説明された技術について確認しておく	1
第4回	健康科学講義：メンタルヘルスと健康	(予習) 「メンタルイネス (うつ病など)」について調べておく (復習) 授業で説明されたいようについて確認しておく	1
第5回	マルチスポーツ (コーディネーショントレーニング)	(予習) 「コーディネーショントレーニング」について調べておく (復習) 授業で説明された技術について確認しておく	1
第6回	ランニング (個人の能力に合わせたランニングを実践する)	(予習) 「ランニング」の際のフォームや留意点について調べておく (復習) 授業で説明された技術について確認しておく	1
第7回	健康科学講義：生活習慣と健康 (脳卒中について)	(予習) 「脳卒中」について調べておく (復習) 授業で説明された内容について確認しておく	1
第8回	バレーボール (基本技術の確認)	(予習) バレーボールの概要 (基本技術等) を確認をしておく (復習) 技術の定着を図るため、各自反復練習を行う	1
第9回	バレーボール (チーム練習、試合方法について)	(予習) バレーボールのルールについて確認をしておく (復習) 技術の定着を図るため、各自反復練習を行う	1
第10回	健康科学講義：生活習慣と健康 (糖尿病について)	(予習) 「脳卒中」について調べておく (復習) 授業で説明された内容について確認しておく	1
第11回	バレーボール (試合と審判法)	(予習) バレーボールの審判法について確認をしておく (復習) 試合を通しての自己評価と振り返りを行う	1
第12回	室内トレーニング (個人の能力に応じたトレーニングを実践する)	(予習) トレーニングの概要 (目的、種別等) を確認しておく (復習) 授業で説明された技術について確認しておく	1
第13回	健康科学講義 (生活習慣の自己診断)	(予習) 自分自身の生活習慣について振り返っておく (復習) 自分自身の生活習慣上の課題と改善策を考察しておく	1
第14回	まとめとレポート課題	(予習) 授業の振り返りのためのポイントについて確認しておく (復習) 授業全体を通して課題達成に対する総合的な自己評価と振り返りを行う	1
<b>教科書・参考書等</b>			
適宜配付する。			
<b>成績評価方法・基準</b>			
実技に関しては、集団の内容はゲームでの成績、個人的内容は個々の実践能力を持って評価する。また講義等に関しては、授業内でレポート課題等の提出を求める。それらを総合的に評価することでこの授業の成績とする。			

<b>38</b>	<b>健康・運動科学実習Ⅱ</b> FGE-MPH-211	選択 1単位 1年後期	
Practice of Health, Exercise and Physical Sciences II			
E・T・C・K・A 1年全組 教 授 高野 淳司 准 教 授 本田 春彦 非常勤講師 松原 悟		非常勤講師 池田 晃一	
<b>授業の達成目標</b>	生涯にわたり継続的に運動を楽しむための資質や能力を身につけることを目的に複数種類のトレーニングやスポーツ種目を実践する。それぞれのトレーニングやスポーツ種目もたらす効果を理解し、各人の目的に応じてトレーニングやスポーツを選択できる能力を養う。	<b>授業形態</b>	
		単独 (1人が全回担当)	
		○ 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)	
		オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>	対面授業とオンライン授業を併用して授業を行う。様々なトレーニングやスポーツ種目を個人あるいはグループ単位で取り組む。また、健康科学講義や生活習慣の自己診断等を通し、健康づくりのための基本的知識を習得する。	<b>該当科目</b>	
		教職科目 (工業)	
		教職科目 (情報)	
		地域志向科目	
<b>実務経験を活かした教育について</b>		実務経験のある教員担当 アクティブラーニング	
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>			
	<b>学習内容 (授業方法)</b>	<b>学習課題 (予習・復習)</b>	<b>時間(時)</b>
第1回	ガイダンス (授業概要・成績評価の説明)	(予習) 選択する種目等についてシラバスで確認する (復習) 履修登録や実施場所等の授業全体のルールについて確認する	1
第2回	バドミントン (基本技術の確認)	(予習) バドミンントンの概要 (基本技術等) を確認しておく (復習) 技術の定着を図るため、各自反復練習を行う	1
第3回	バドミントン (グループ練習、試合方法について)	(予習) バドミンントンのルールについて確認しておく (復習) 技術の定着を図るため、各自反復練習を行う	1
第4回	健康科学講義: 生活習慣と健康 (脂肪と筋肉のはたらきについて)	(予習) 「脂肪と筋肉のはたらき」について調べておく (復習) 授業で説明された内容について確認しておく	1
第5回	バドミントン (試合と審判法)	(予習) バドミンントンの審判法について確認しておく (復習) 試合を通しての自己評価と振り返りを行う	1
第6回	なわとび (個人の能力に合わせたなわとびを実践する)	(予習) 「なわとび」のグリップの握り方やフォーム等について調べておく (復習) 授業で説明された技術について確認しておく	1
第7回	健康科学講義: 生活習慣と健康 (腸のはたらきについて)	(予習) 「腸のはたらき」について調べておく (復習) 授業で説明された内容について確認しておく	1
第8回	バスケットボール (基本技術の確認)	(予習) バスケットボールの概要 (基本技術等) を確認しておく (復習) 技術の定着を図るため、各自反復練習を行う	1
第9回	バスケットボール (チーム練習、試合方法について)	(予習) バスケットボールのルールについて確認しておく (復習) 技術の定着を図るため、各自反復練習を行う	1
第10回	健康科学講義: 生活習慣と健康 (脳のはたらきについて)	(予習) 「脳のはたらき」について調べておく (復習) 授業で説明された内容について確認しておく	1
第11回	バスケットボール (試合と審判法)	(予習) バスケットボールの審判法について確認しておく (復習) 試合を通しての自己評価と振り返りを行う	1
第12回	室内トレーニング (個人の能力に応じたトレーニングを実践する)	(予習) トレーニングの概要 (目的、種別等) を確認しておく (復習) 授業で説明された技術について確認しておく	1
第13回	健康科学講義 (体格と身体組成について)	(予習) 自分自身の生活習慣について振り返っておく (復習) 自分自身の生活習慣上の課題と改善策を考察しておく	1
第14回	まとめとレポート課題	(予習) 授業の振り返りのためのポイントについて確認しておく (復習) 授業全体を通して課題達成に対する総合的な自己評価と振り返りを行う	1
<b>教科書・参考書等</b>			
特になし (必要な場合は適時授業時に資料を配付する。)			
<b>成績評価方法・基準</b>			
実技に関しては、集団の内容はゲームでの成績、個人的内容は個々の実践能力を持って評価する。また講義等に関しては、授業内でレポート課題等の提出を求める。それらを総合的に評価することでこの授業の成績とする。			

39	<b>スポーツ科学実習</b> FGE-MPH-320		選択 1単位 2年前期
	Practice of Sports Science		
E・T・C・K・A 1年全組		教 授 高野 淳司 准 教 授 本田 春彦 非常勤講師 土井 豊	非常勤講師 森田 清美
<b>授業の達成目標</b>			<b>授業形態</b>
生涯にわたり継続的に運動を楽しむための資質や能力を身につけることを目的に複数種類のトレーニングやスポーツ種目を実践する。それぞれのトレーニングやスポーツ種目がもたらす効果を理解し、各人の目的に応じてトレーニングやスポーツを選択できる能力を養う。			<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)
<b>授業の概要</b>			<b>該当科目</b>
対面授業とオンライン授業を併用して授業を行う。様々なトレーニングやスポーツ種目を個人あるいはグループ単位で取り組む。また、健康科学講義や生活習慣の自己診断等を通し、健康づくりのための基本的知識を習得する。			<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (情報) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング
<b>実務経験を活かした教育について</b>			
<b>授業計画 (各回の学習内容等)</b>			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	ガイダンス (授業内容と進め方の理解)	(予習) 選択する種目等についてシラバスで確認する (復習) 履修登録や実施場所等の授業全体のルールについて確認する	1
第2回	インディアカ (基本技術の確認)	(予習) インディアカの概要 (基本技術等) を確認しておく (復習) 技術の定着を図るため、各自反復練習を行う	1
第3回	インディアカ (グループ練習、試合方法について)	(予習) インディアカのルールについて確認しておく (復習) 技術の定着を図るため、各自反復練習を行う	1
第4回	健康科学講義:生活習慣と健康 (腎臓のはたらきについて)	(予習) 「腎臓のはたらき」について調べておく (復習) 授業で説明された内容について確認しておく	1
第5回	インディアカ (試合と審判法)	(予習) インディアカの審判法について確認しておく (復習) 試合を通しての自己評価と振り返りを行う	1
第6回	ランニング (個人の能力に合わせたランニングを実践する)	(予習) 「ランニング」の際のフォームや留意点について調べておく (復習) 授業で説明された技術について確認しておく	1
第7回	なわとび (個人の能力に合わせたなわとびを実践する)	(予習) 「なわとび」のグリップの握り方やフォーム等について調べておく (復習) 授業で説明された技術について確認しておく	1
第8回	ポッチャ (基本技術の確認と試合方法について)	(予習) ポッチャの概要 (基本技術等) を確認しておく (復習) 技術の定着を図るため、各自反復練習を行う	1
第9回	卓球バレー (基本技術の確認と試合方法について)	(予習) 卓球バレーの概要 (基本技術等) を確認しておく (復習) 技術の定着を図るため、各自反復練習を行う	1
第10回	健康科学講義:生活習慣と健康 (骨のはたらきについて)	(予習) 「骨のはたらき」について調べておく (復習) 授業で説明された内容について確認しておく	1
第11回	フライングディスクを使ったスポーツ (基本技術の確認とミニゲーム)	(予習) フライングディスクの基本動作の概要 (キャッチとスローの基本技術等) を確認しておく (復習) 技術の定着を図るため、各自反復練習を行う	1
第12回	室内トレーニング (個人の能力に応じたリラクゼーション法を考案し実践する)	(予習) リラクゼーション法の概要 (目的、種別等) を確認しておく (復習) 授業で説明された技術について確認しておく	1
第13回	室内トレーニング (個人の能力に応じたトレーニング法を考案し実践する)	(予習) トレーニング法の概要 (トレーニングの原理等) を確認しておく (復習) 授業で説明された技術について確認しておく	1
第14回	まとめとレポート課題	(予習) 授業の振り返りのためのポイントについて確認しておく (復習) 授業全体を通して課題達成に対する総合的な自己評価と振り返りを行う	1
<b>教科書・参考書等</b>			
適時授業時に資料を配付する。			
<b>成績評価方法・基準</b>			
毎回の授業中の課題達成度や役割の遂行状況、課題レポート、技術の習得状況、ミニゲームやリーグ戦の成績等により総合的に評価する。			

39	<b>スポーツ科学実習（ゴルフ）</b>	FGE-MPH-320	選択 1単位 2年前期
	Practice of Sports Science (Golf)		
全学科2年全組 教 授 高野 淳司 准 教 授 本田 春彦 非常勤講師 池田 晃一			
<b>授業の達成目標</b>		<b>授業形態</b>	
生涯スポーツや健康づくりの一つとしてゴルフを実践し、本種目の競技特性や楽しさ、コンペラウンド等の運営方法等を理解・体得する。他者とのコミュニケーション力を養います。授業前半で基本的なゴルフスイング（ショット・アプローチ・パット）の基本技術を理解・習得し、それをもとに授業後半でラウンドするミニコースで実際に実践することが出来る様になることを目標とする。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
<b>授業の概要</b>		<b>該当科目</b>	
この集中コースは、夏期休業中に学外のゴルフ専用施設を利用して実施する。授業前半はゴルフ打球練習場でのスイングの基本技術の習得と応用、授業後半はミニゴルフ場でのショートコースの実践ラウンドを行い受講者の技術習得度を受講者自身で確認する。なおこの集中コースは、実習に要する経費の一部は受講生の自己負担となる。		<input type="checkbox"/> 教職科目（工業） <input type="checkbox"/> 教職科目（情報） <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
<b>実務経験を活かした教育について</b>			
<b>授業計画（各回の学習内容等）</b>			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	ガイダンス ゴルフの基礎理論：「用具の活用、スイング動作、ボールヒッティング」についての説明	(予習) 用具や基本動作について調べておく (復習) 履修登録や実施場所等の授業全体のルールについて確認する	1
第2回	打球場での学習と練習「アプローチ基礎」	(予習) アプローチ技術のポイントについて調べておく (復習) 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	1
第3回	打球場での学習と練習「アプローチ応用」	(予習) 状況に応じたアプローチ技術のポイントについて調べておく (復習) 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	1
第4回	打球場での学習と練習「ショートアイアン基礎」	(予習) ショートアイアンのスイング技術のポイントについて調べておく (復習) 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	1
第5回	打球場での学習と練習「ショートアイアン応用」	(予習) 状況に応じたショートアイアン技術のポイントについて調べておく (復習) 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	1
第6回	打球場での学習と練習「ミドルアイアン基礎」	(予習) ミドルアイアンのスイング技術のポイントについて調べておく (復習) 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	1
第7回	打球場での学習と練習「ミドルアイアン応用」	(予習) 状況に応じたミドルアイアン技術のポイントについて調べておく (復習) 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	1
第8回	打球場での学習と練習「ドライバー、パター」	(予習) ドライバーのスイングやパターの基本について調べておく (復習) 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	1
第9回	打球場での学習と練習「模擬ラウンド」	(予習) ラウンドを想定した練習における自身の課題について確認しておく (復習) 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	1
第10回	ショートコースでのマナー学習と練習(バンカー、グリーン周り)	(予習) バンカーやグリーン周りにおけるマナーについて調べておく (復習) 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	1
第11回	ショートコース（9ホール、パー27）を練習ラウンド	(予習) 第1回～第10回の振り返りと、自身の課題を再確認しておく (復習) 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	1
第12回	打球場での学習と練習「ラウンド実践に向けての調整」	(予習) 練習ラウンドを通じて発見した課題を再確認し、練習しておく (復習) 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	1
第13回	ショートコースローカルルール、マナー確認	(予習) 「ローカルルール」やマナーについて再確認しておく (復習) 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	1
第14回	ショートコース（9ホール、パー27）をラウンド実践	(予習) 第11回～第13回の振り返りと、自身の課題を再確認しておく (復習) 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	1
<b>教科書・参考書等</b>			
適時資料を配付する。また、視聴覚映像を使用する。			
<b>成績評価方法・基準</b>			
基礎実技、応用実技の達成度、コースラウンド結果及び課題レポートを総合的に評価する。			

39	<b>スポーツ科学実習（スキー）</b> FGE-MPH-320		選択 1単位 2年前期 (集中講義)
	Practice of Sports Science (Ski)		
全学科2年全組		教 授 高野 淳司 准 教 授 本田 春彦 非常勤講師 池田 晃一	非常勤講師 草野 修治 非常勤講師 森田 清美
<b>授業の達成目標</b>			<b>授業形態</b>
スキーの基礎技術や応用技術を習得し、自分の技量に応じたスキースポーツの楽しみ方を見つける。スキーヤーとして必要な安全配慮やスキー場でのルールやマナーを身につける。			<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)
<b>授業の概要</b>			<b>該当科目</b>
この集中コースは前期開講科目であるが冬季スポーツであるため後期に実施される3泊4日の実技実習を経て1単位が認定される。実習は技能に応じた班別指導が行われ、班別集団演技等によって技能の向上が図られるだけでなく、人間交流も含めた共同生活を通じてルールやマナーも学び、総合学習の機会として意義深い。ただしこの集中コースは、実習に要する経費は学生の自己負担となる。			<input type="checkbox"/> 教職科目（工業） <input type="checkbox"/> 教職科目（情報） <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング
<b>実務経験を活かした教育について</b>			
<b>授業計画（各回の学習内容等）</b>			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	ガイダンス（クラス分け） スキースポーツの特性とスキー技術論、スキーと安全、用具の知識とその活用についての説明	（予習） 用具や基本技術、安全上の留意点などについて調べておく （復習） 履修登録や実施場所等の授業全体のルールについて確認する	1
第2回	技能テスト1「班分け」	（予習） 技術のポイントについて調べておく （復習） 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	1
第3回	基礎技術「緩斜面での安全滑走」	（予習） 滑走と止まり方の技術やポイントについて調べておく （復習） 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	1
第4回	基礎技術「緩斜面での制動・回転技術」	（予習） 緩斜面での回転技術のポイントについて調べておく （復習） 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	1
第5回	応用技術「緩斜面での大回り」	（予習） パラレルターンの大回りについて技術やポイントについて調べておく （復習） 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	1
第6回	応用技術「緩斜面での小回り」	（予習） パラレルターンの小回りについて技術やポイントについて調べておく （復習） 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	1
第7回	応用技術「中斜面滑走」	（予習） 中斜面での滑走における技術やポイントについて調べておく （復習） 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	1
第8回	技能テスト2「到達レベルチェック、班再編」	（予習） 第3回～第7回の授業の振り返りをしておく （復習） 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	1
第9回	発展技術「中斜面での大回り」	（予習） 中斜面での大回りにおける技術やポイントについて調べておく （復習） 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	1
第10回	発展技術「中斜面での小回り」	（予習） 中斜面での小回りにおける技術やポイントについて調べておく （復習） 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	1
第11回	発展技術「中・急斜面での大回り」	（予習） 急斜面での大回りにおける技術やポイントについて調べておく （復習） 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	1
第12回	発展技術「中・急斜面での小回り」	（予習） 急斜面での小回りにおける技術やポイントについて調べておく （復習） 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	1
第13回	応用実技練習「班別団体演技」	（予習） 自身にとって課題となる動作について確認しておく （復習） 授業で説明された技術やルールを確認し練習しておく	1
第14回	技能テスト3「基礎実技、応用実技」まとめ	（予習） 授業の振り返りのための技術のポイントについて確認しておく （復習） 授業全体を通して課題達成に対する総合的な自己評価と振り返りを行う	1
<b>教科書・参考書等</b>			
適時、資料を配付する 参考書 SAJ 編 日本スキー教程 理論編 指導実技編検定編			
<b>成績評価方法・基準</b>			
学内・学外授業の全日程参加を必須条件とし、受講中の課題達成状況や役割遂行状況、および実習日誌（レポート）等について総合的に評価する。			

40

**特別課外活動 I** FGE-IDP-010

選択 1単位 1年前期～4年後期

Off-class Practice I

詳細については、シラバスの『特別課外活動』についてのページを参照のこと。

41

**特別課外活動Ⅱ** FGE-IDP-020

選択 1単位 1年前期～4年後期

Off-class Practice Ⅱ

詳細については、シラバスの『特別課外活動』についてのページを参照のこと。

42

**特別課外活動Ⅲ** FGE-IDP-030

選択 2単位 1年前期～4年後期

Off-class Practice Ⅲ

詳細については、シラバスの『特別課外活動』についてのページを参照のこと。

43

**特別課外活動Ⅳ** FGE-IDP-040

選択 2単位 1年前期～4年後期

Off-class Practice Ⅳ

詳細については、シラバスの『特別課外活動』についてのページを参照のこと。

